



LIBRARIES

UNIVERSITY OF WISCONSIN-MADISON

北蝦夷圖繪 = Kita Ezo zusetu. [vol. 4] 1855

Mamiya Rinzō, 1780-1844

[s.l.]: [s.n.], 1855

<https://digital.library.wisc.edu/>

<http://rightsstatements.org/vocab/NoC-US/1.0/>

The libraries provide public access to a wide range of material, including online exhibits, digitized collections, archival finding aids, our catalog, online articles, and a growing range of materials in many media.

When possible, we provide rights information in catalog records, finding aids, and other metadata that accompanies collections or items. However, it is always the user's obligation to evaluate copyright and rights issues in light of their own use.

北蝦夷圖説

スメレンタル夷部
附録

四
尾

V-1310-4

北蝦夷圖說卷之四

常陸 間宮倫宗口述

備中 秦 貞廉 編

スメレンクル夷の部上

一 シラヌシト云く西海岸凡百五六拾里かゝる所はキトウシと称
とる地あり此所ト云くして奥地を満州附屬がくの夷スメレンク
ルヤ称する異俗の者住居し其人物を理髮りざつ耳飾みみかざりとルコヲ口
ツコ夷小異と云くなりと云ふも容貌何となく少ちく上品
なり其言語亦悉く異なりて辨知し難きもの多し其衣服も
又ヲ口ツコの服とる處小異する所ありと云ふも満州小至

スレンクル夷圖 其二



橋本玉蘭畫



其二



哺乳圖



て交易はる事屢なれば本綿衣の類満州製の物を用ふる
と多し

一 女夷も亦ヲロワコ夷亦少異あるありとちりともども其容貌
艶たる者多し浴湯成粧の事見聞はるところありともども
嗽口拭面はるありは日毎小是をとるせば顔色いつも瀟灑と
して醜穢の色なり且其情蝦夷島女夷と大に異なりて相識
かゝる人なりとも能馴て昵し言語通せざれば其言と云
る瞭然とすべしとゞくも時氣寒暖の應接などありてつひ
しも婉情妖態多く男子に接するの様親意殊に深しと云
一 女夷裁縫の事小疎きものなり其顔色美艶なりとゞくも衆夷

易るところ無^{ちま}敷なぐれハ常食とちひよ号^し及時稀^し嘗
食ひ

一日中の食度本^よあ定^りたるあやち^まく其飢渴^しは従^ひ食ひ
あ^らかりと^しど^も大抵^し兩^三度^を限^りと^らる^るべ^し男^夷
を朝起^のち^り其^所業^よと^らる^るか^らと^し漸^{やく}小^飢と^催ひ^須及^で
四^時家^小と^らる^る其^内女^夷家^よあ^りて朝^餉の^設け^を調^へ夫
の^帰る^を待^て膳^とと^らむ^其勸^食の^状大^小本^邦と^異し
て^飯菜^交食^ひと^らる^ると^く假^令家^内三^人か^ら先^釜中^の魚
と^三よ^分て^いふ^も多^少な^り様^よ三^盆小^盛是^を勸^め其^食
終^るに^待て又^草根^の煮^物小^魚鯿^の油^とと^らる^る也^たと^三椀

小齋さいく盛て是とては是亦食し終て後他の粟麥粥など
とてむ如斯るあはれど更は同物と二盃と食はるべ
となし大抵何物と食はるべども饗應きやうおうの席はあはれを習な
味弄食あじわちて多食はるべからず悉く儉けんして其節とるべし
是その食物悉しつ海山よとあはれく人造のものにあはれきれば多く
得べき物にあはれべしと飢渴の事あはれと怒るべし
といふべしと云

一 饗應の事南方と異なりて其席貴賤の次序とるは次あり殊小
巖いざなちし家中の正面に坐はる者を上客となし其左右順とて
列座は

一 酒ハ地製のものナリ 悉ク満州より交易一來るところ此のもの
 ふして其名とアルカと称シ 本邦の焼酎カウホーと称シ
 る錫壺（けいぶつが）盛て湯中に入せ又熱灰中小埋て温酒となり是
 とらむ杯を陶器（やきもの）にして満州より交易一來るものちウ宴中
 一杯と巡環（じゆんかん）して是を飲み他器を出しあふあり有ハ其時より
 了割（わたり）専種（せんしゆ）の差ありと之（これ）も此下西三種を出して其概と
 つらぬ（つらぬ） 満州より交易一來る酒瓶錫壺杯其他夷の杯盤と
 乾罇 乾キーヒル（夷称ハケ）
 右二味各細（さい）に割（わ）く僅小鹽味を加（くわ）一蕃椒粉（ばんかく）と合して一種と
 一 生魚（なまがし）の類（るい）と水煮熟して一器小盛て置別小シヤシと称する海

草似昆布者キトヒル或も葱ネギの類と合割一是と水子放つ時其

水はどつて少く鹽氣と存は是と以て水煮の魚肉と食ふ

一 大豆 キトヒル 湄メ兒エ豆其他草根草實と合是つ能く水煮

一 魚油とそろふで和物とちる

一 蕎麥の粉と以て餅と製一魚油と注そつて一種とる

一 粟と粥とちりて一肴とちる満州より遠来のゆれなれが珍味

やは其大概如斯類少して此他獸肉の類は有る但やて割烹は

一 凡諸肴何ふらび一種毎に一盆盛るあくちの譬は肴五種

ある時五盆と出ひ平生の食事と異ふとて客毎に盆と設け

は其次序と追て一盆過食一其態主人強勸いむれば客固辞は

上
下
中
左
右

るがごの事しあうる蝦夷島宴飲の類ふあうり

一 此夷域ふふうりは酒は殊ふ少く貧賤夷のおくきうり其味と
知ざり者少うり然るふ林藏持ゆり所は砂糖と出りて是
を嘗志ひるふ唯美ちうりと称らるるもてふりて更ふ餘りと食
ふ者なく酒烟草と出りて少く是を嘗志ひるふ忽其味と
悦び餘りと乞ふり殊に切りて甚ふり者ふふうり顔色
相貌平生ふ異るふふりもれあうり北夷の嗜好是を外ありて
他物有りとたれあうりと知るべし

一 此夷種ももて其地の寒暖よもて穴居はるるものいりて
る者あうり其穴居せざる者の居家は六間四面乃至七

るなり。の事しあらず。蝦夷島宴飲の類ふあり。次

一 此夷域ふふは酒は殊ふ少く貧賤夷のあききり其味と
知ざら者少く。然る小林藏持ゆくり沙糖と出して是
を嘗てひるふ唯美ちると称するも。少して更な餘りと食
ふ者なく酒烟草と出して少く是を嘗てむれば忽其味と
悦び餘りと乞ふと殊に切あて甚た死る者ふふは顔色
相貌平生ふ異なるふもれあり北夷の嗜好是を外あて
他物有とかならぬと知るべし。

一 此夷種も其地の寒暖よみて穴居するものあり。せざ
る者あり其穴居せざる者の居家は六間五間四面乃至七

け飲食の雜具其他日用の器械あり總て此箇上は貯ふ

一 戸扉ハ悉く割板と以て是と製し障子ハ 本邦のおもく格子

と製し魚皮と以て是と張る

一 冬月よまゐる時ハ四壁の表面土と粘りて細隙の風を防ぐと云

一 其穴居ひる者夏月居る所の家其製總て同トと云ども戸口

と一所よのとは是と殺けて外より出入らる所なく窓と屋上より開

て透明れ所とちり林く三方よ設くと云ども石を以てせむ

とて板と用ふ家ハ中央大なる爐を製して外より電氣と設け

は其側面と置て雜器と貯ふ

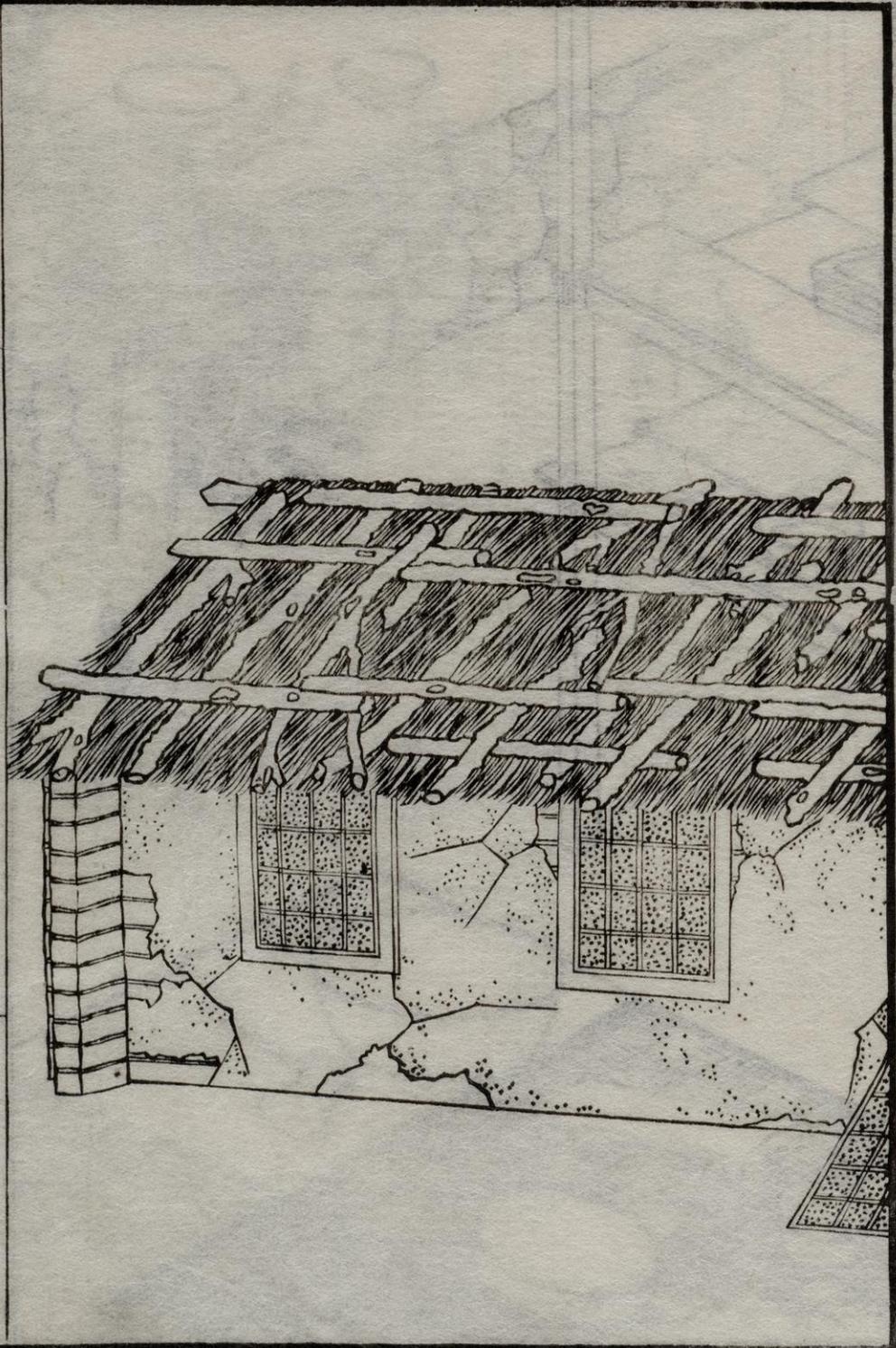
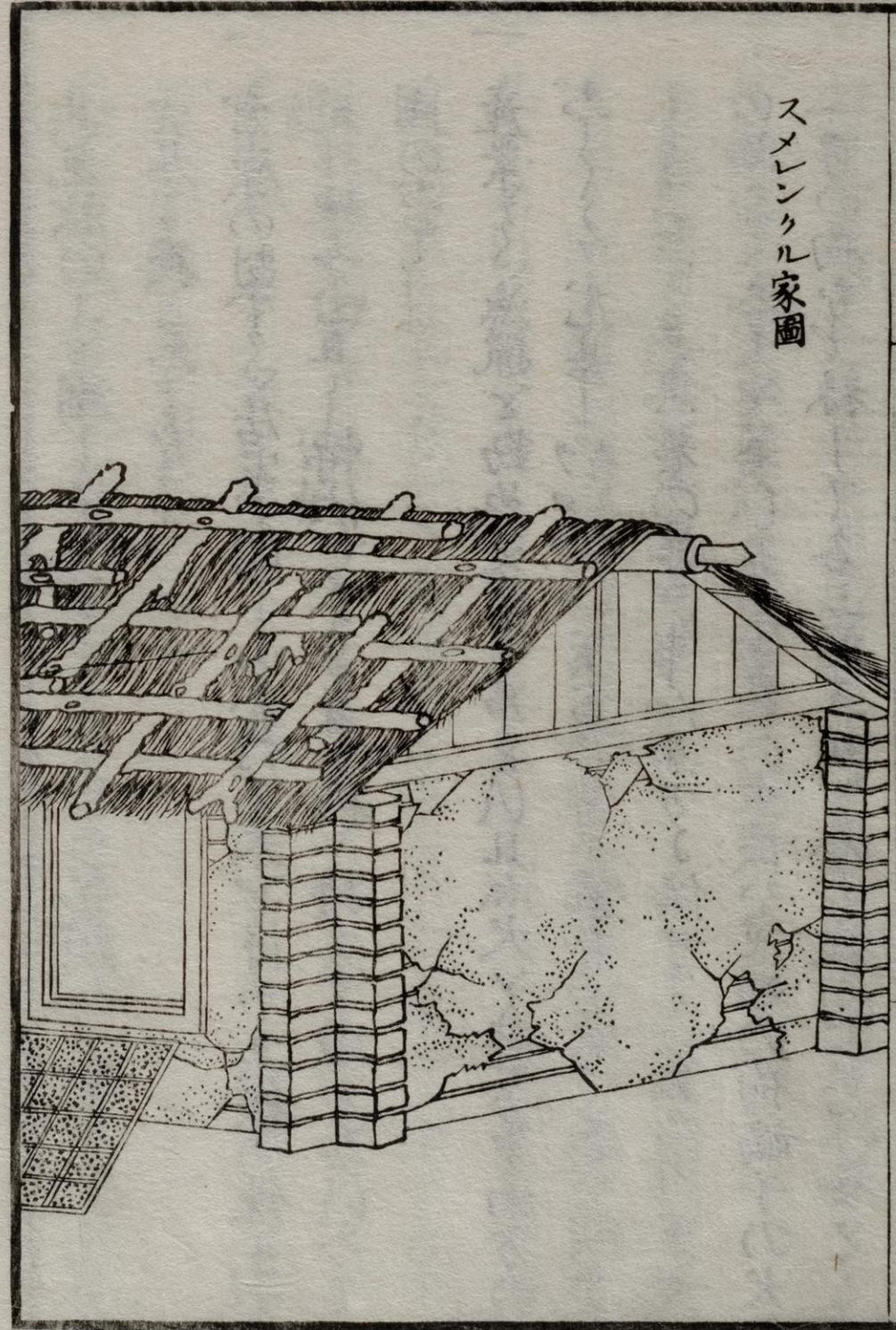
一 其穴居の形林藏只其表面のものと見て其居中と知らべ故よ

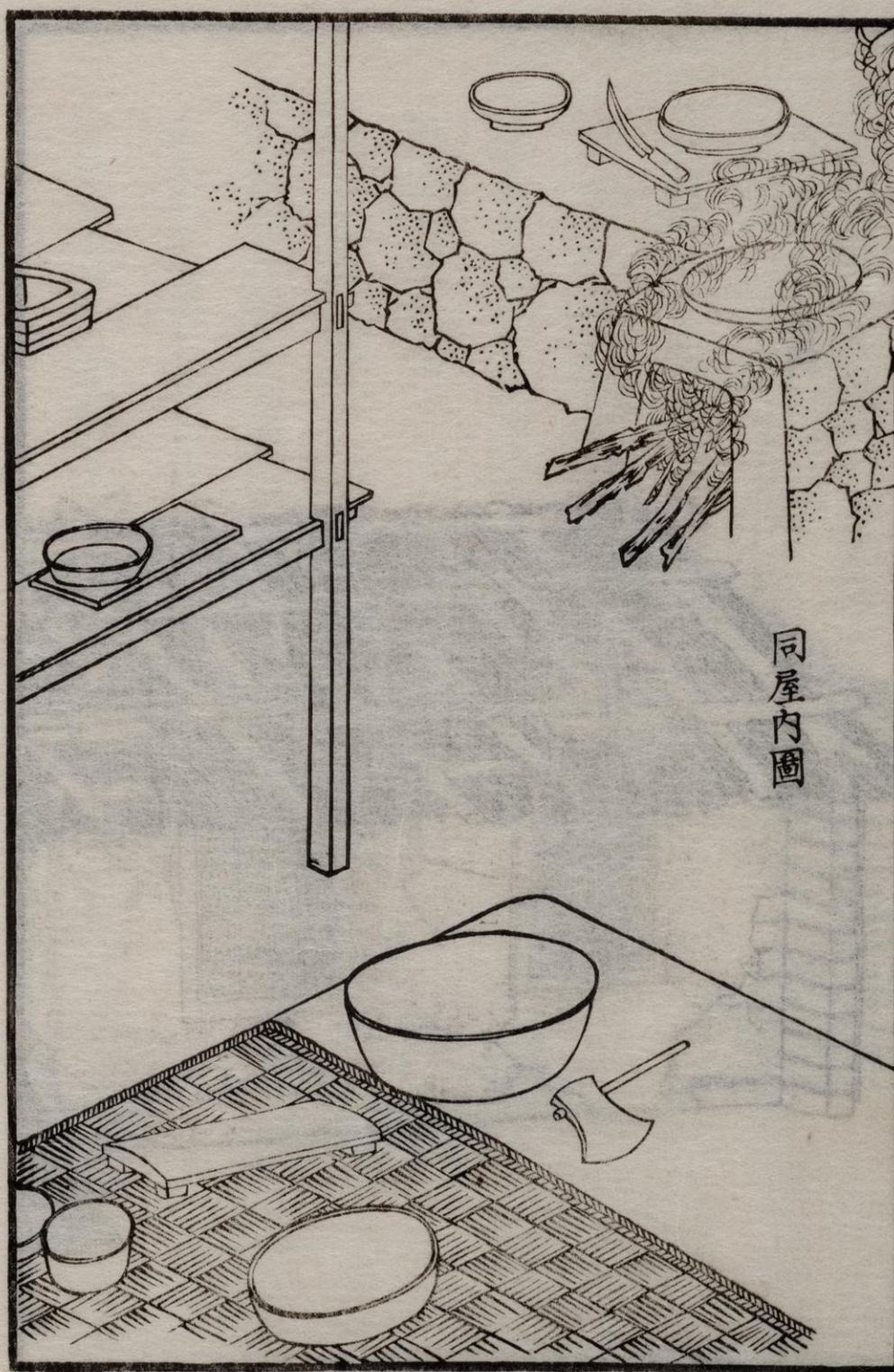
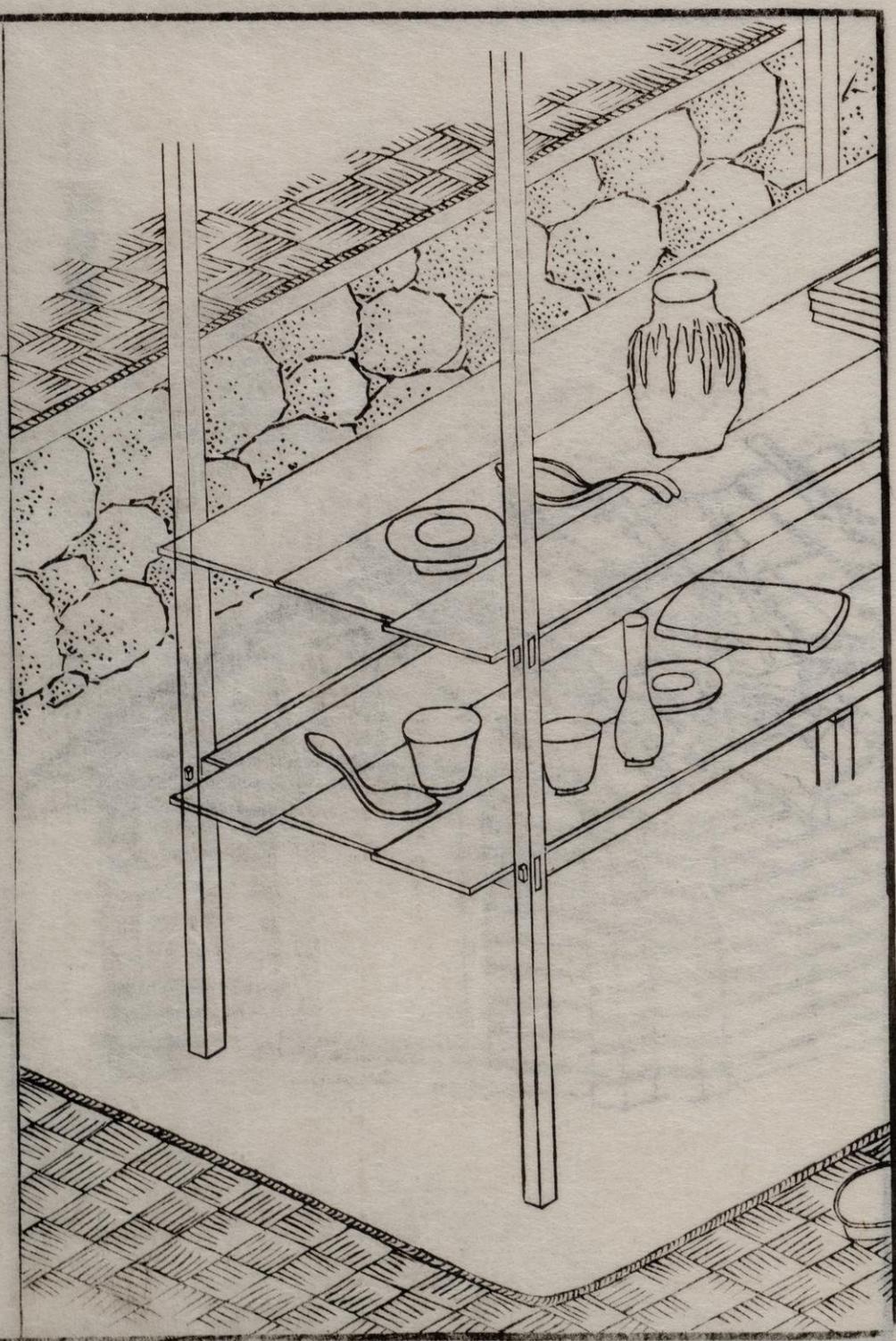
其見状の〜と圍して其見ざるころをハツ闕カ如カ以カ蓋カ一初島の
穴居アノは異カるカなり

一 倉廩クラの製カるカ居家カと同一山カ不行カて木カとカほカり其根カの殊カは蔓カ
延カ一地上カ不カ置カて轉カ伏カせざる者カとカ撫カて持カ來カて礎カとカあカりカ
圖カのカぢカぢカ

一 産業カする漁獵カと勤め交易カと事カとい且カ亦カ犬カと伴カふ事南方カの
ぢカぢカぢカ尤カ甚カ一カ ヲロツカツカコカ 夷カは異カるカ貧富カの者カ不カ論カなく家カは是カと飼カや
ふ者カなく其惠養カの厚カき事カ亦カ南方カは倍カせり一家カの内男女
の論カあく各犬カと養カひ是カは家翁カの犬カ彼カは老姫カの狗カ嫡子カの犬
二男カの狗カなどカ称カして各カ三頭カ五頭カと養カふ故カ亦カ一家カに養カとと

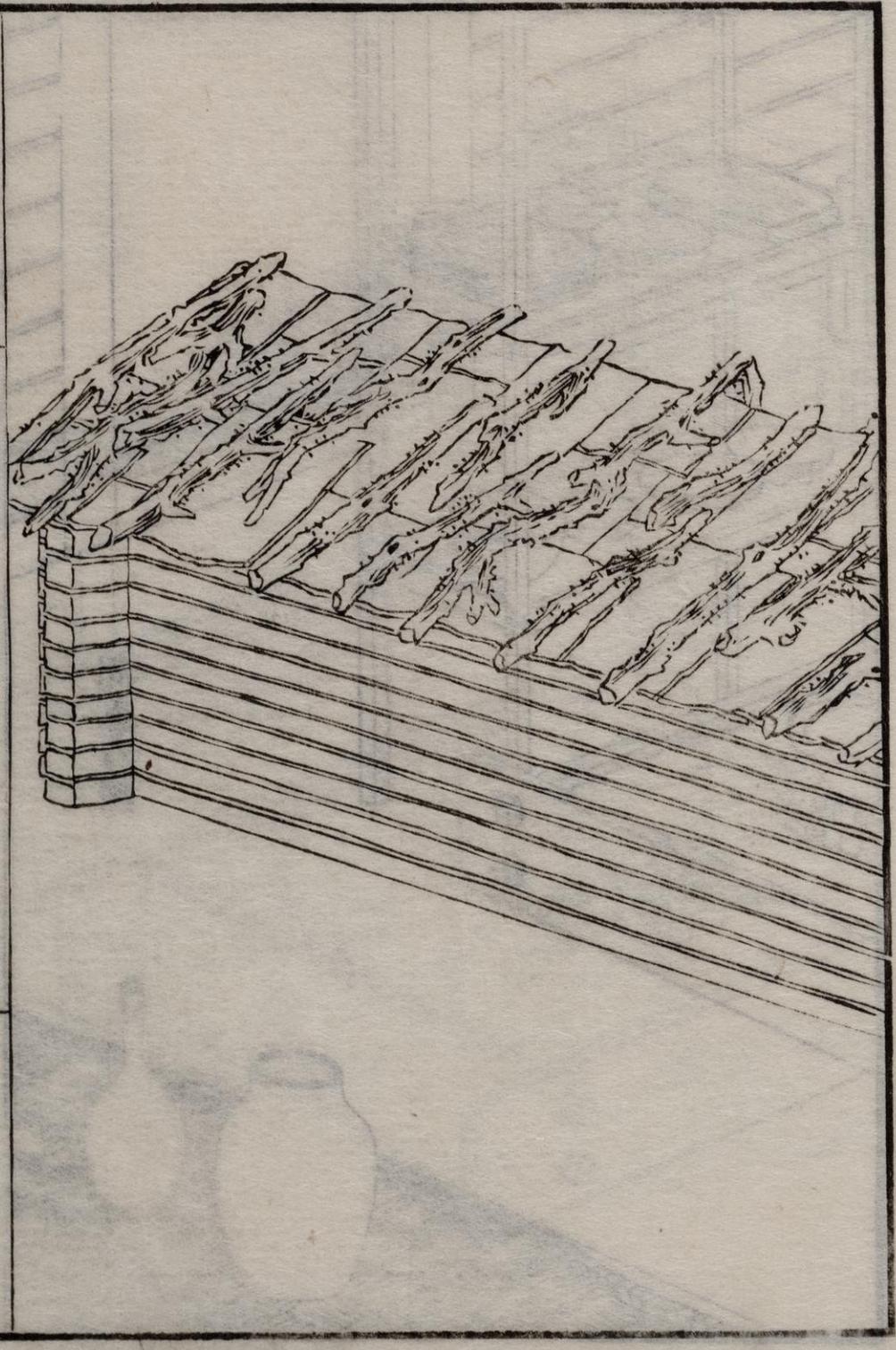
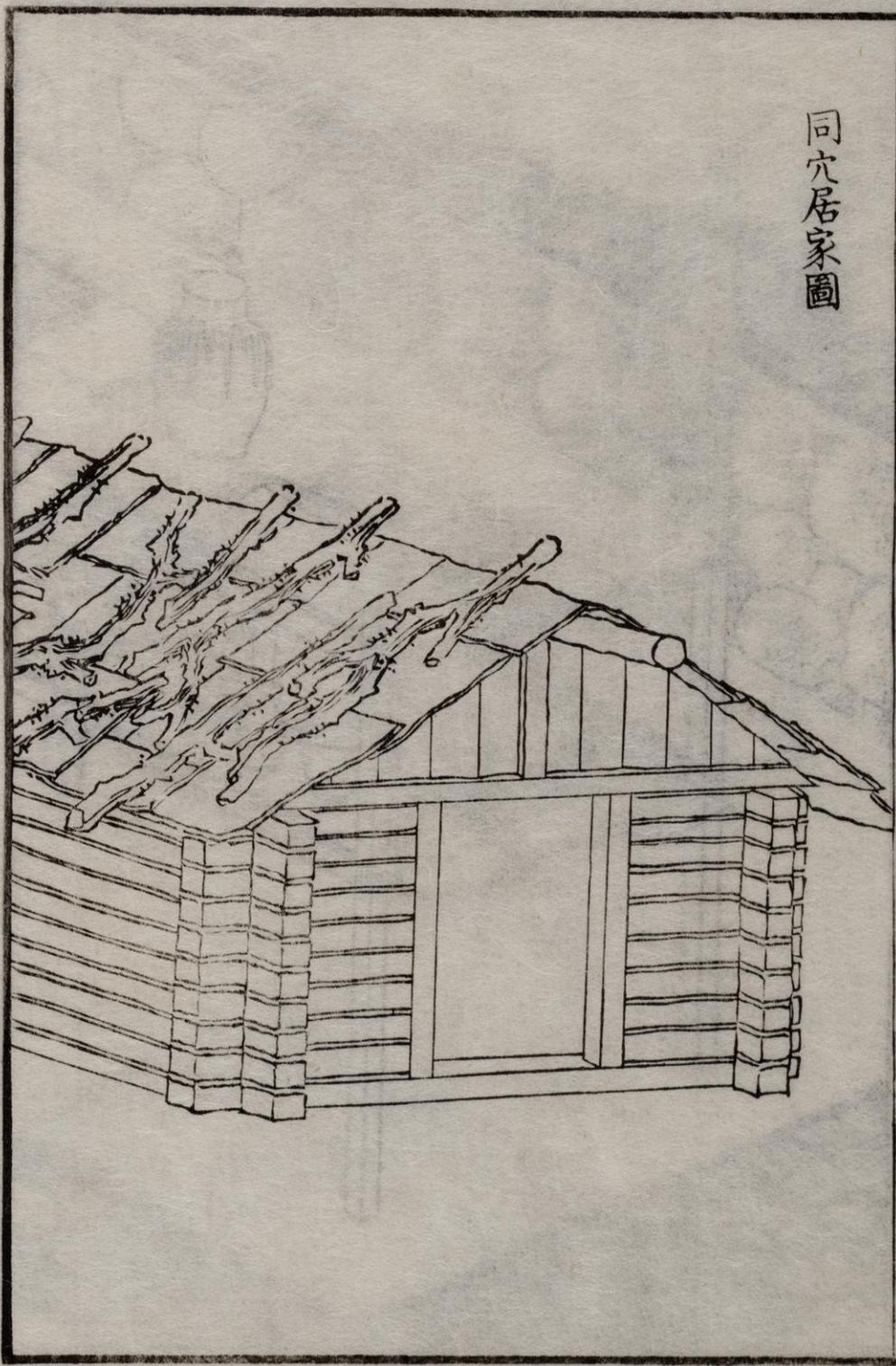
スメリンクル家圖

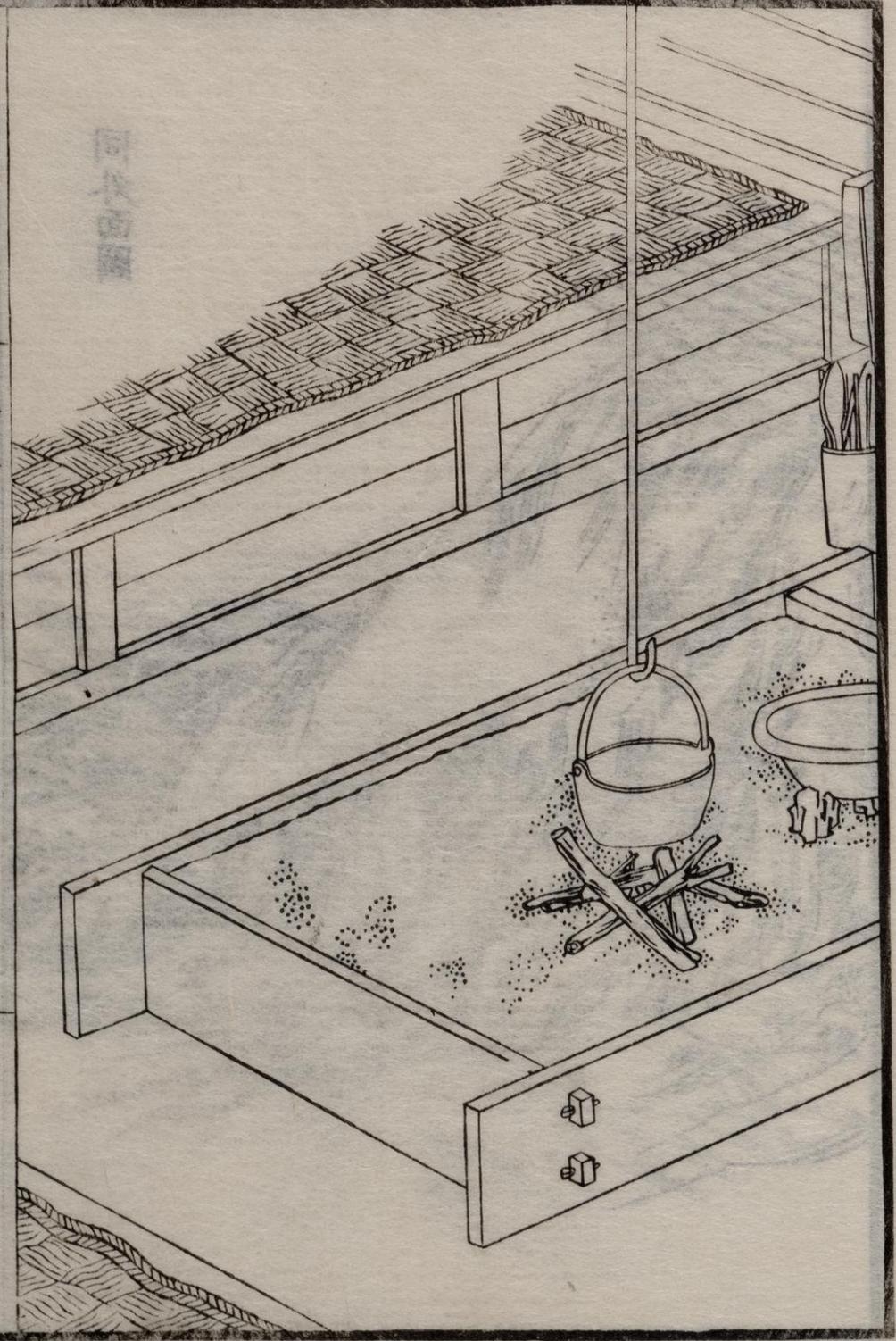




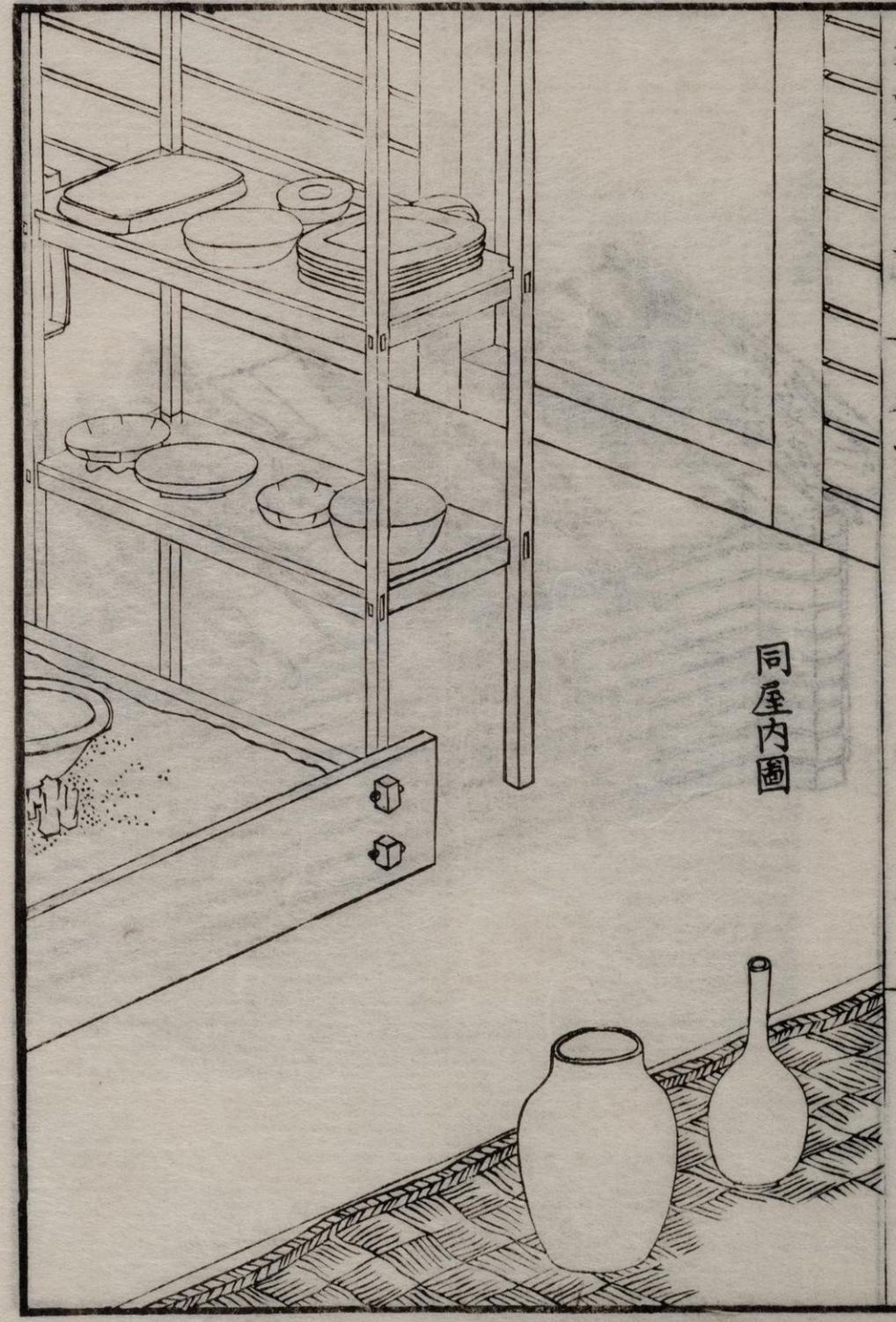
同屋內圖

同穴居家圖





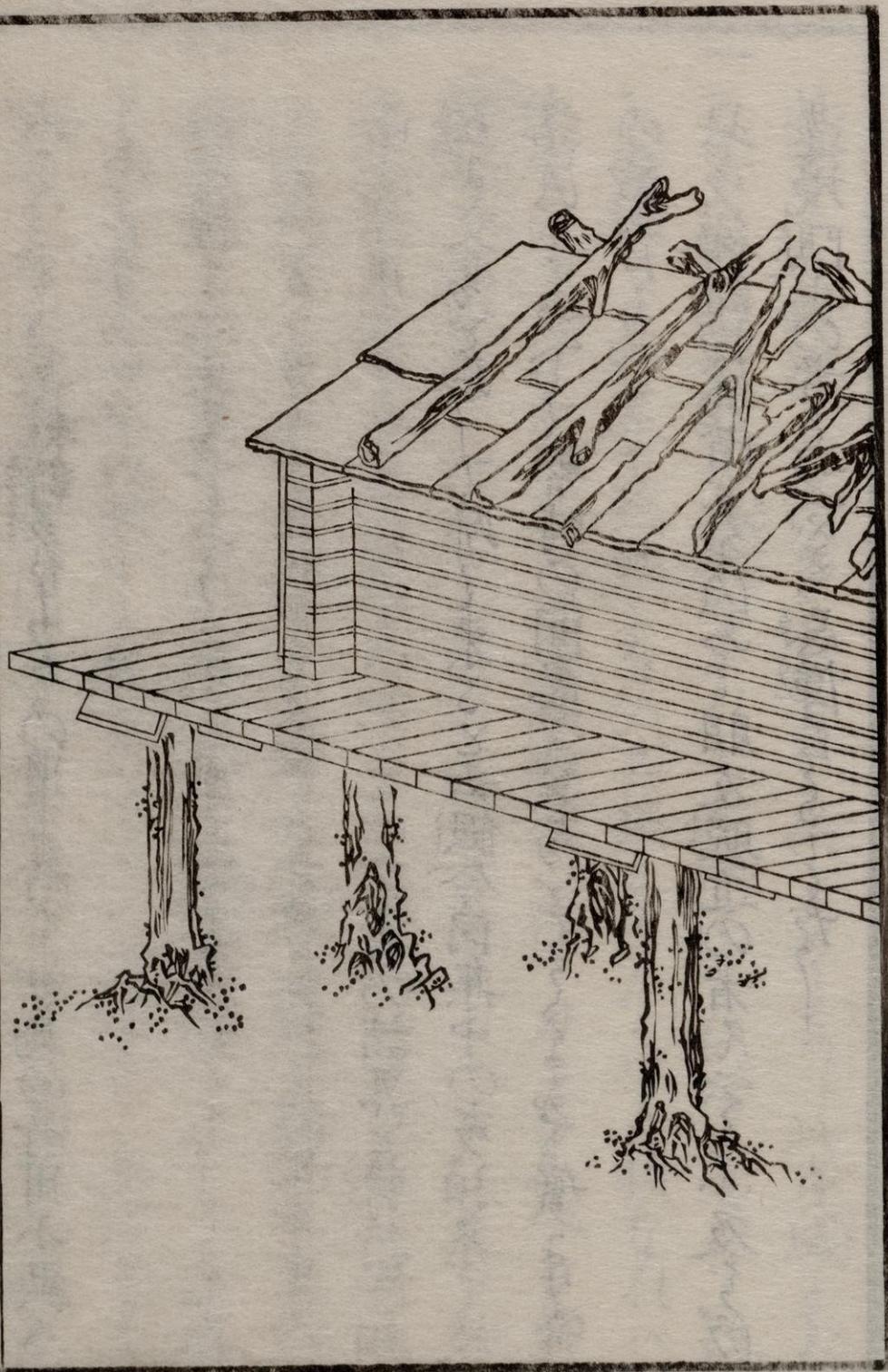
同屋內圖



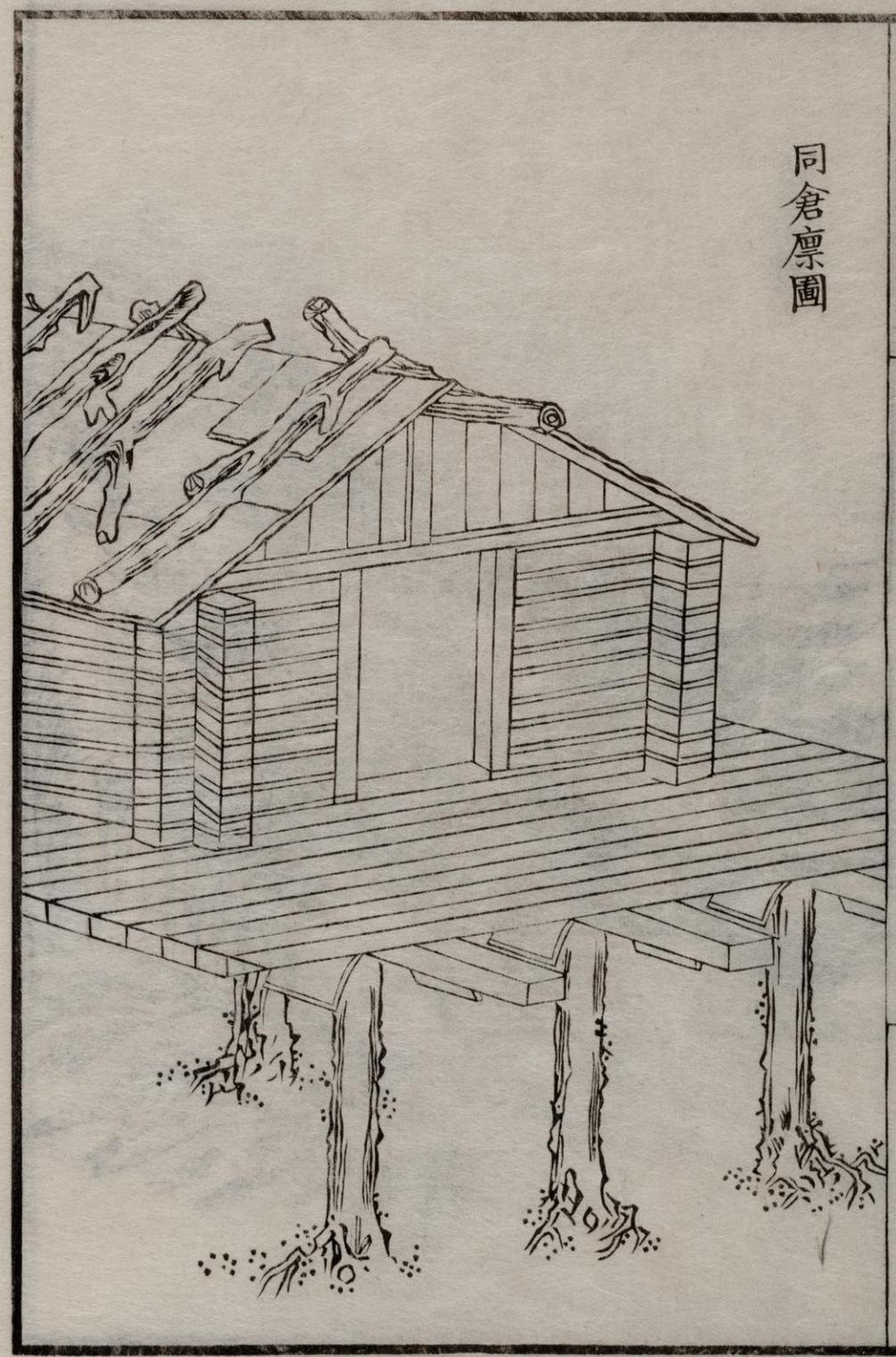
同屋內圖

同外面圖





同倉廩圖



るもいづれも其數許多かりその用る所を初島の所用小異なる
るありたり

一 此夷種も亦交易とありしとる事南方夷の如く少して尤甚
しとい實は男女の差別なく悉く交易と勤む凡一里半里乃
所は諸用ありて出行いといづれも必交易の諸器と携行き相
互に交易とありて歸り來ると云假令同集中の夷相集て談
話しるといづれも暫時の間忽ち交易とありしとる實は生産
の第一なり

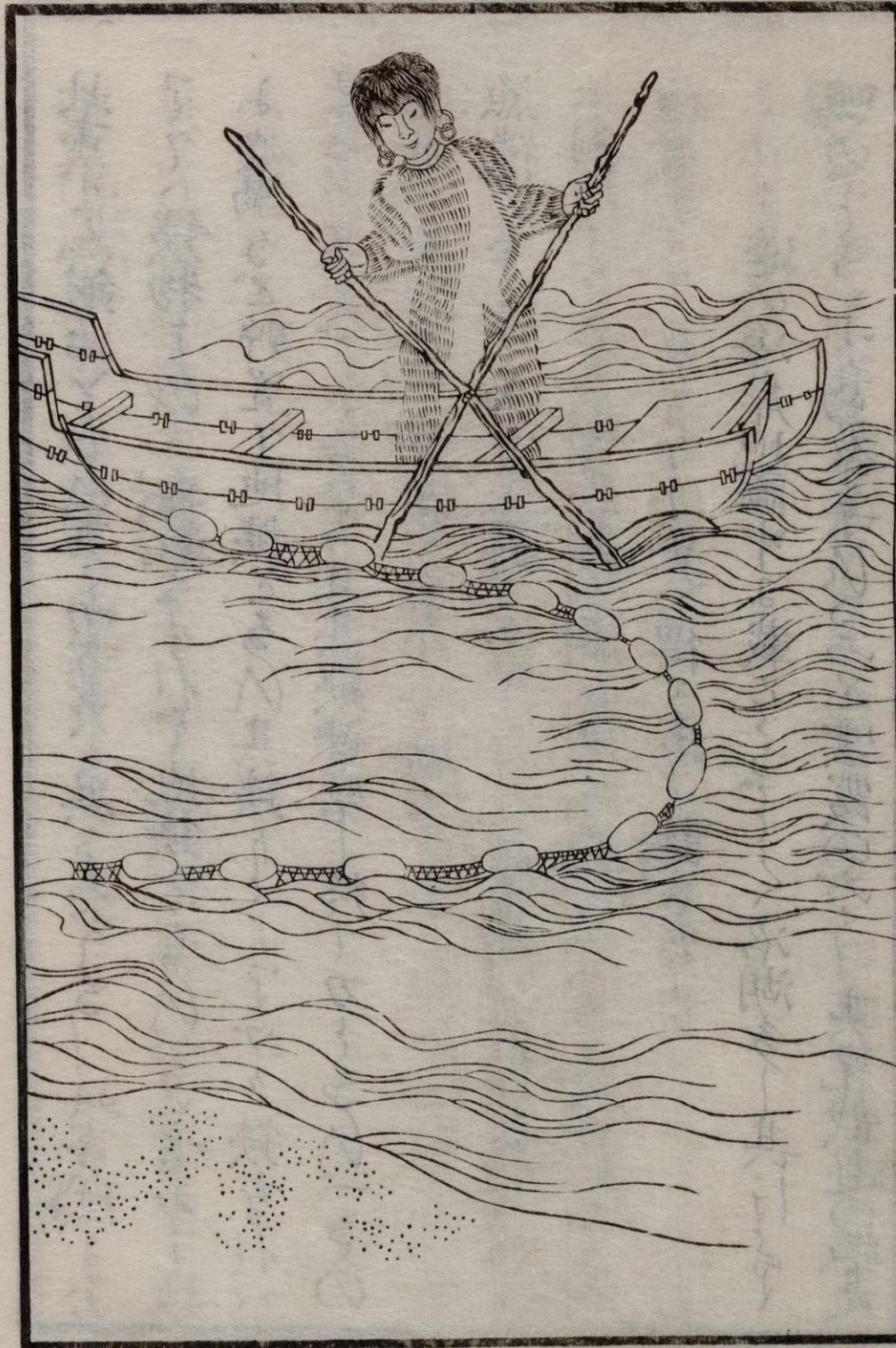
一 此夷種諸物貸借とありありと朋友昵近の者も云ふ不及ぎ
遠境隔土の者といづれも忌憚とありたり

此夷も六鍛冶となし事南方夷は異るちやちや此夷域に至
るてハ鉄物まひく無^{あやう}数なるれを地鉄となしづき者少し故
に破鍋るど貯置て地鉄とるは其鉄かよらゞツク鉄ならハ
練磨の事大に辛苦ちや且其鉄鍊磨し終て刀とるはづきの
間漸く^{ぜんく}減却して僅小十分の一と得ると云

一 漁獵の事総て南方は異るちやちや只差網と設て魚を得る
小図れどくたひりのあつ潮水増減の時小當て濶^{ひろ}口かどの
迫處ありて是をたし魚を得るちや許^{ちや}多ちや

一 ノテト邊の海岸地圖中は載らるるどく沼湖多し其にはとら
鴨^かのどしき小島羣集しつちと雲霞のどし夷兒戲遊の暇是

地理通考 卷之四



差網漁圖



夷兒捕鳥圖



と得るや、図の如く兩兒相對ちて繩を引一兒よして鳥を
追む鳥驚き縋て繩上を越るの時兩兒繩を踊うて是を打
小大抵一撃ふまゝ七八羽と得ると云繩長々三四尋長夷も
まゝ是とちひとゞども大抵夷兒のたゞ處ちや

一 漁獵の事総て南方夷に異るや、あといくども其性本より剛
強なるものなれを其業とちひと晝夜のちちり攷くとい
て飢渴を忍びけしむるや、南方夷の及ぶ處とちちるやと云

スメレンクル夷の部下

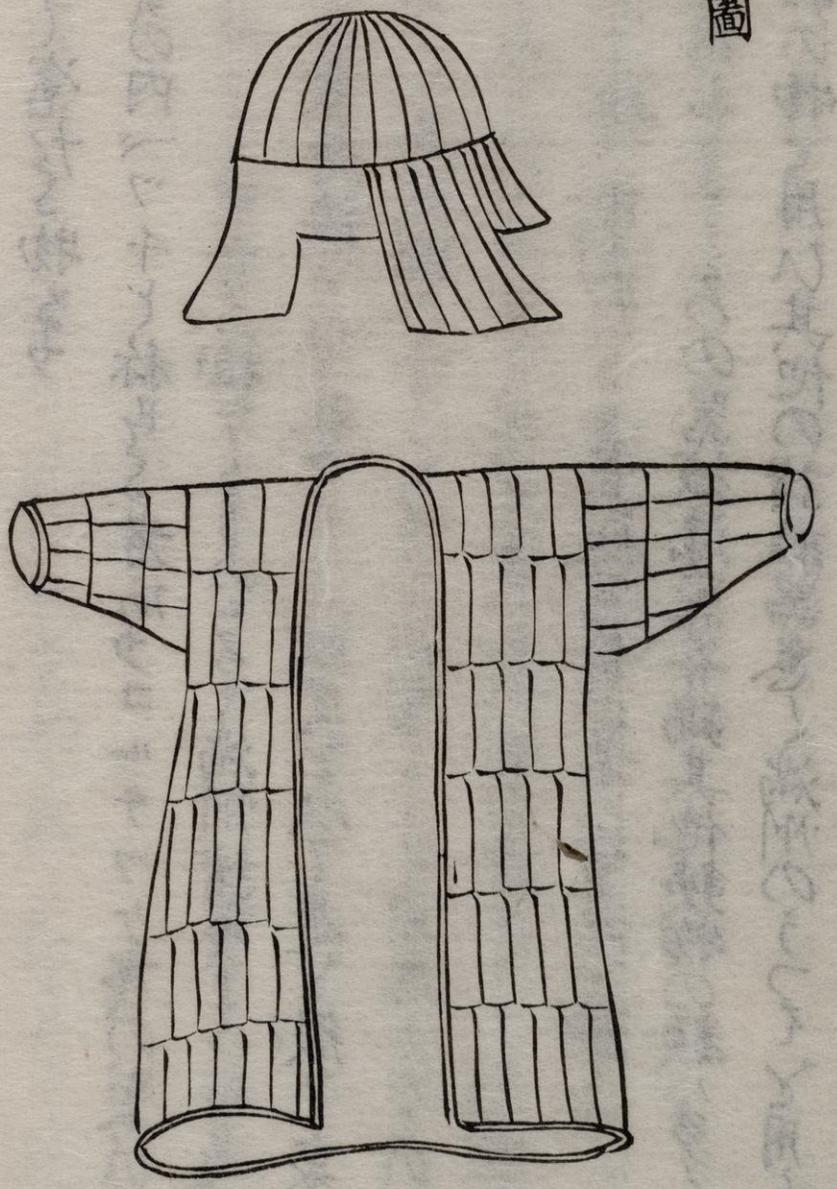
一 此夷種の宝器と称する物ハ蝦夷島に異るや、或はたゞ短刀鐔
目貫の類也 本邦の易へ渡りしものもれるや又満州より

来る處の短刀あり其柄鞘柄つか鞘かぎと蝦夷刻のぶくく彫文一ヤン
と以て塗たる物あり

一 夷寶の内ヅツ千と称する者ハツコルテツケ夷の製しるこ
ころありて甲冑の粗粗あらなるものろく、滿州諸夷諸夷しよゐも皆是と宝
とし其製薄鍍を以て札やナリ 獣皮を以て是と綴つり裏ハ獸
皮とつく其狀圖のあつく殊小粗製よりて用器とたるひつぎ
物小ありびとつくども夷中第一品乃寶器とたり凡國争の
事ある時ハ酋長酋長しゆちやうたる者其他富貴の者ハ皆是と被かる

一 平生用ふるものろの器械漆器斧鍋其他鍍物の類ハ多く
本邦の物を用ひ其他の諸雜器悉く滿州のうつそと用ふ

一ツ千圖

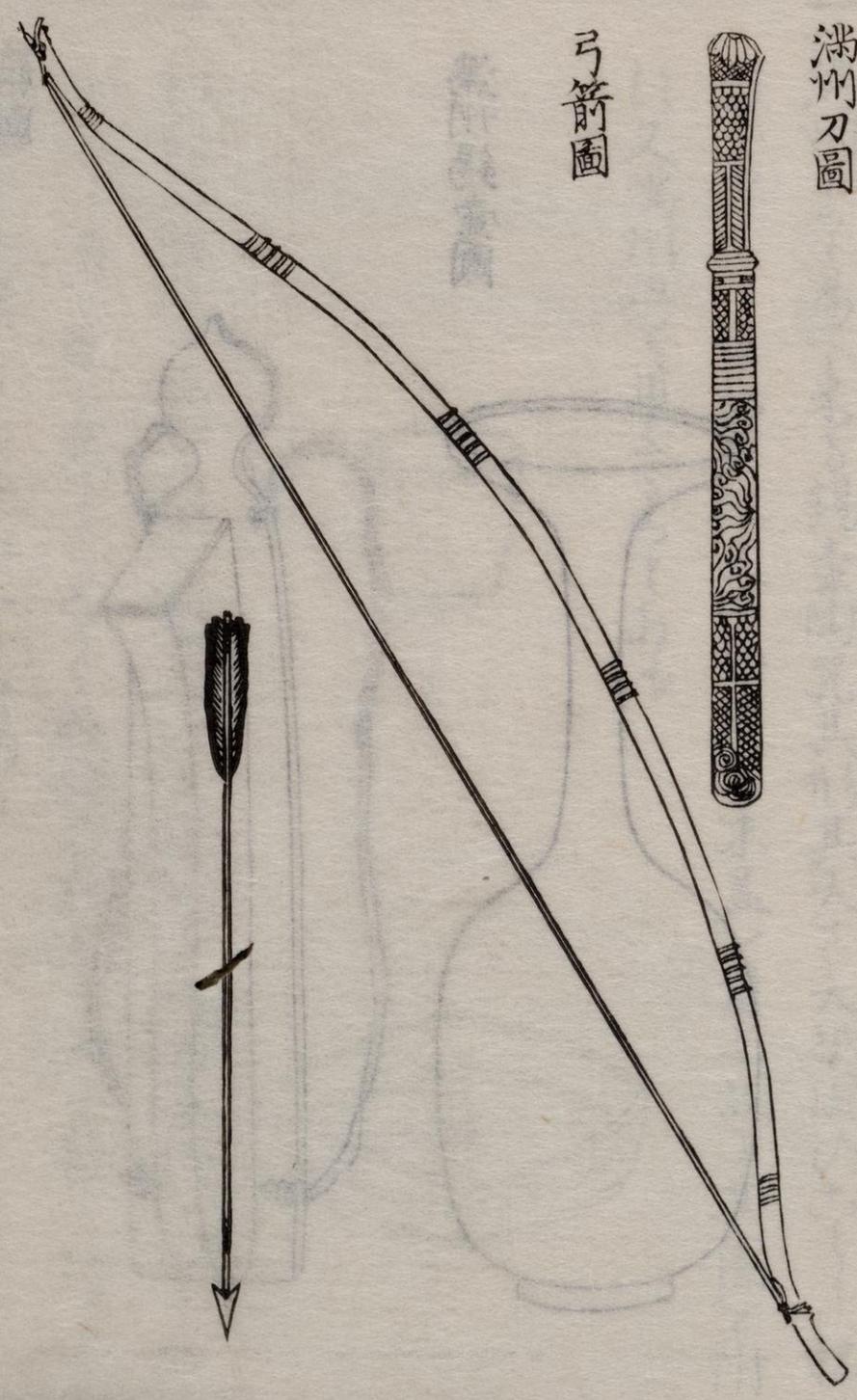


一弓矢の類蝦夷島と異ることたり唯籠まごのまご其製と異る故圖と出

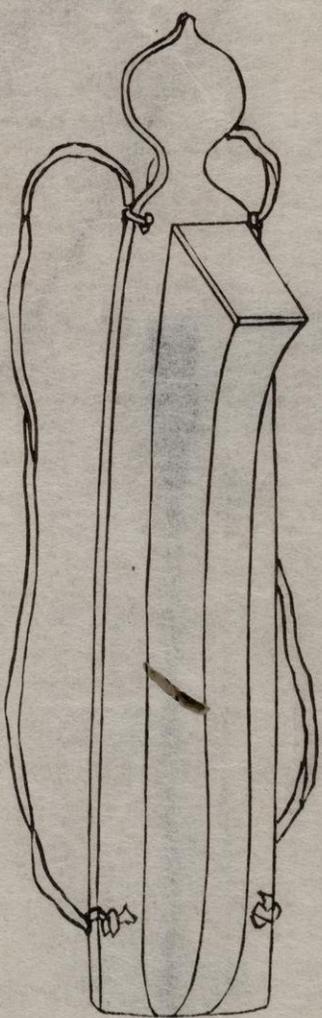
満州刀圖



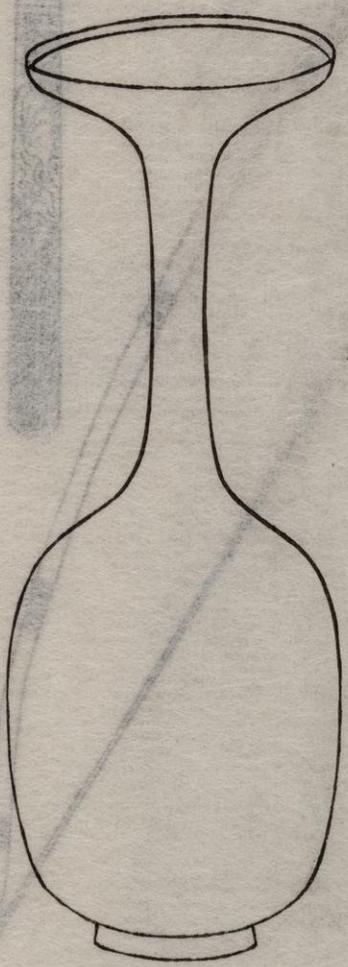
弓箭圖



簾圖

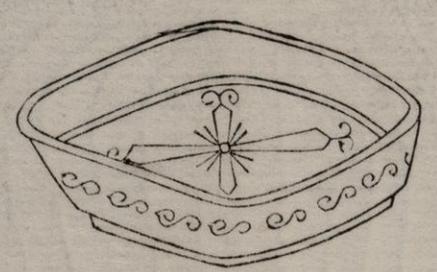


滿州錫壺圖

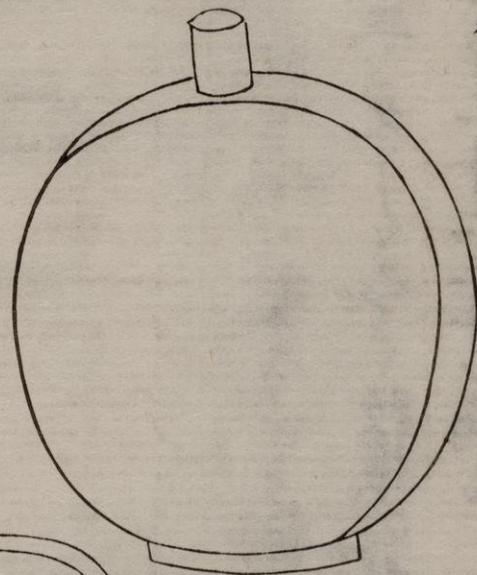


一 滿州より易へ来る錫壺陶器其形其大と大抵圖の如く杯
 盤は多く 本邦の杯又く四碗の末蓋と用ふ故に其圖を附
 け又滿州皿と用ふるものあり

一 初圖の酒瓶ハ萩と以て製する籠あり内面澁糊を以て紙
 糊め酒を盛る久くくちくちく敗損の愁なり 大小種あり
 大抵七八升より一斗二三斗と納る



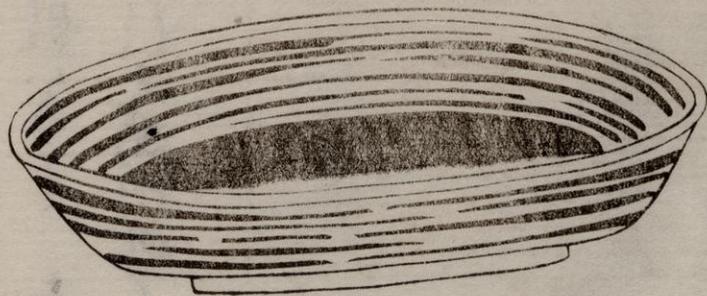
酒瓶
後圖



酒瓶
初圖

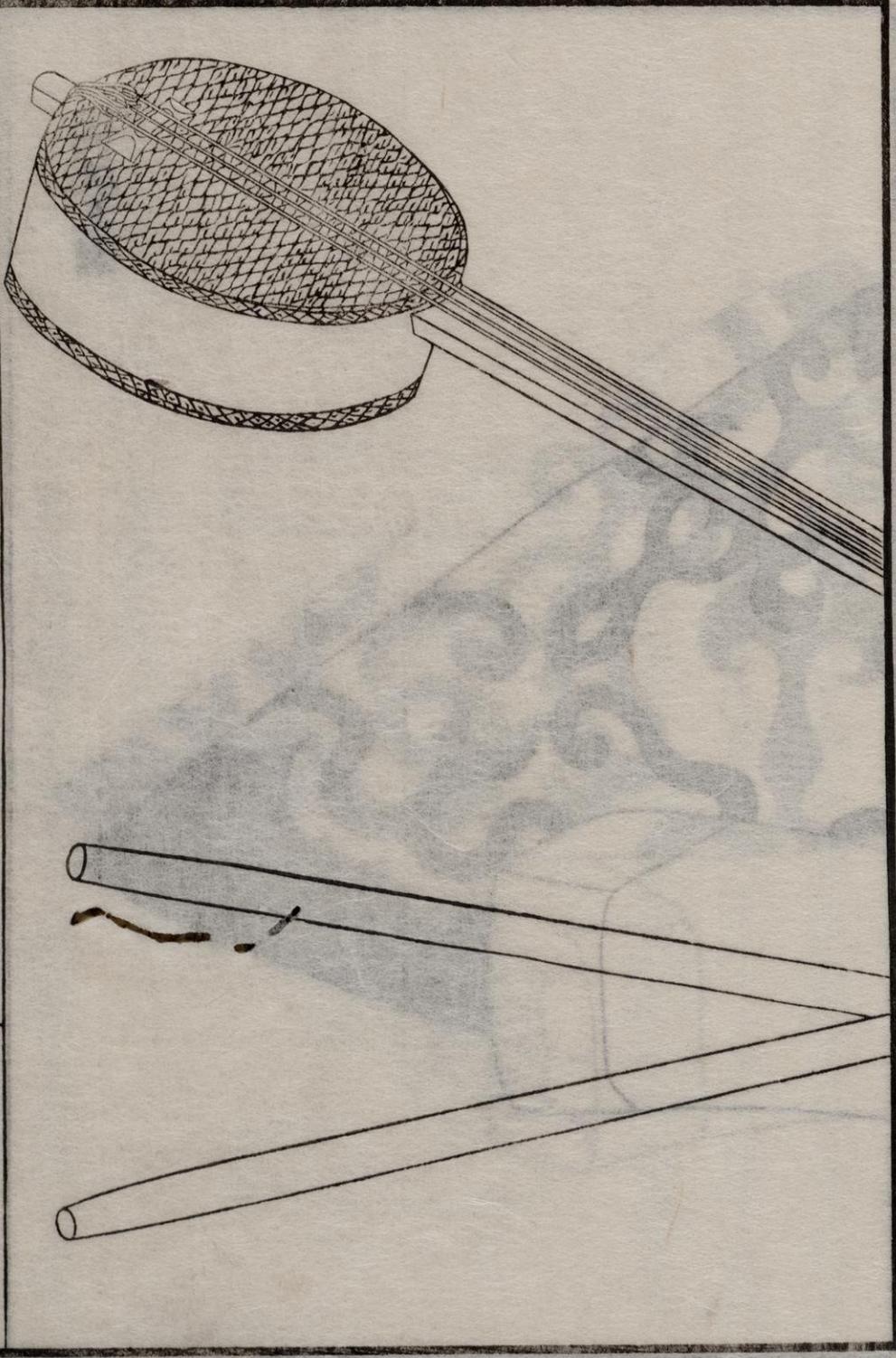
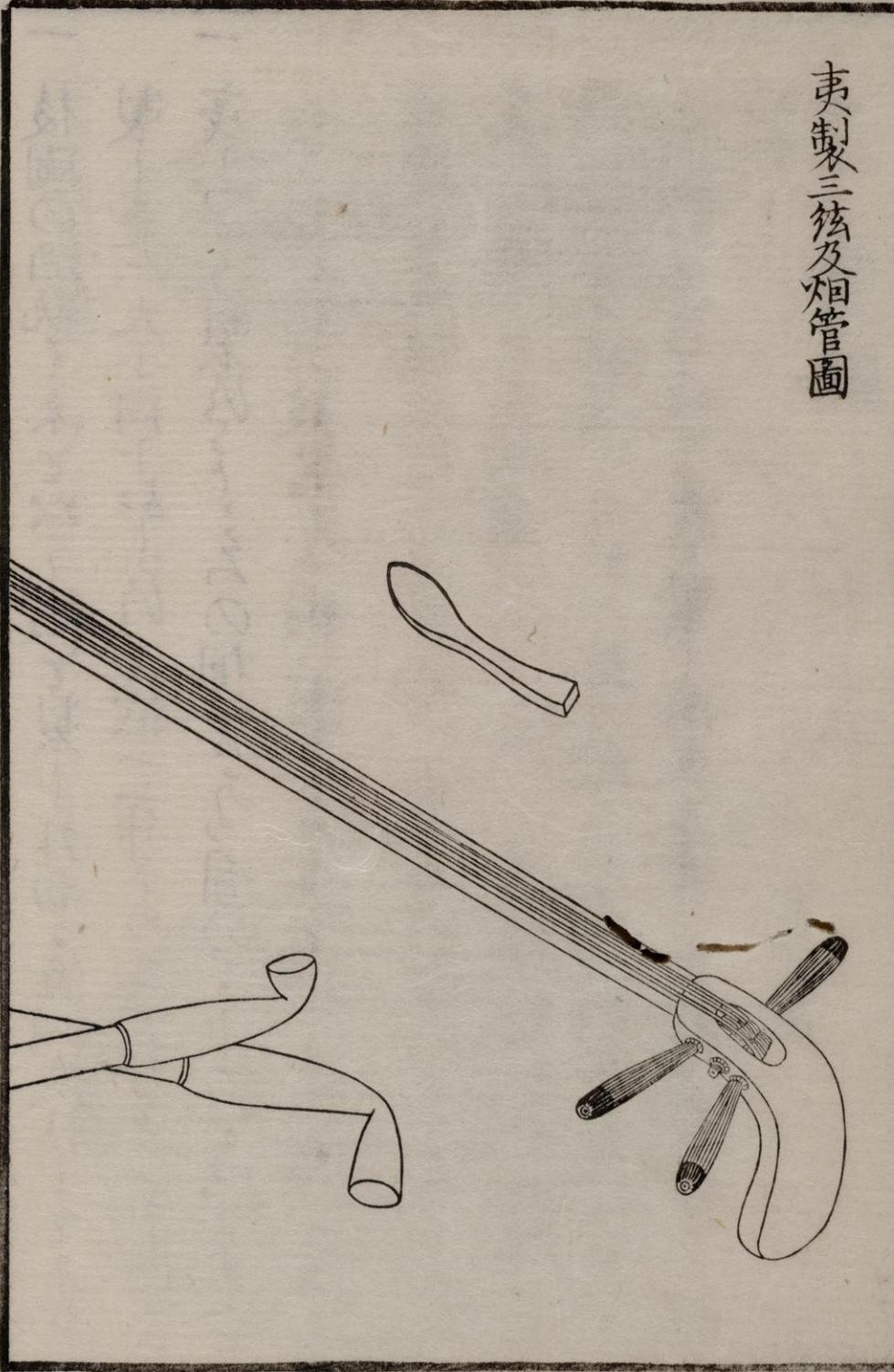


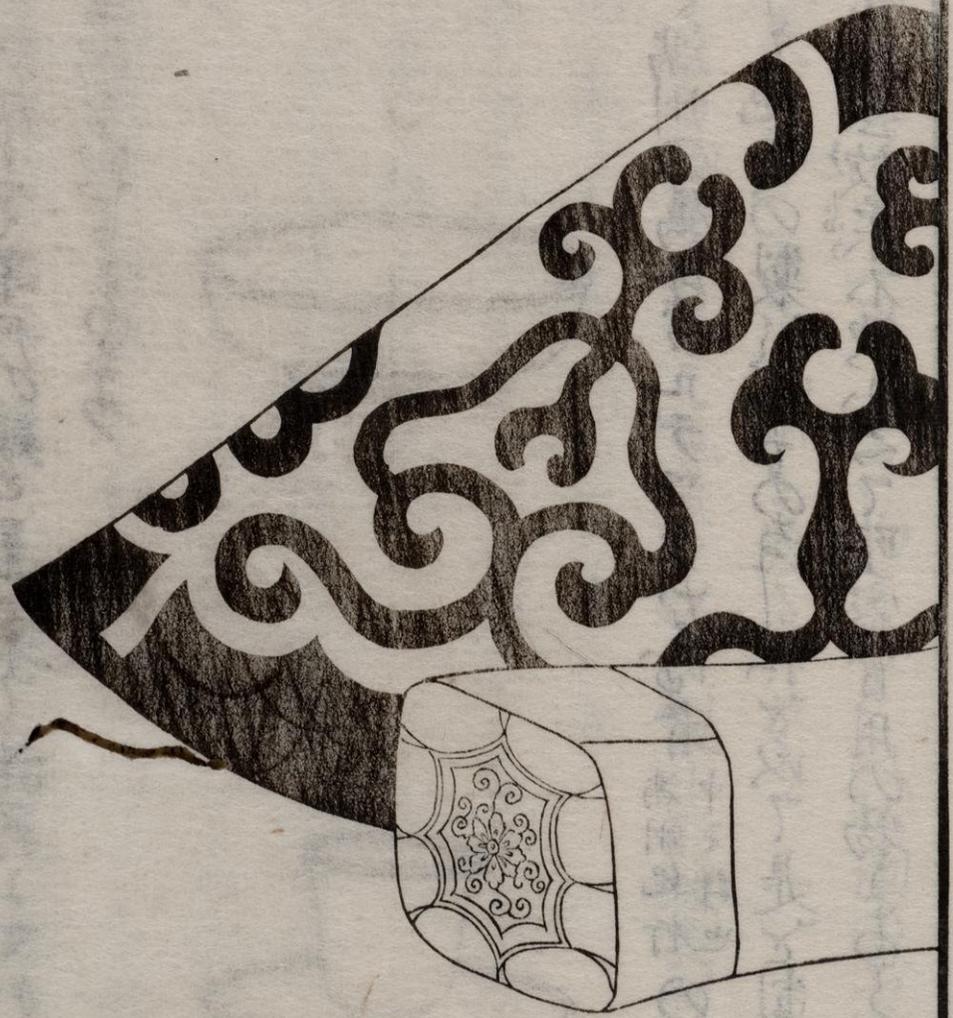
コ
ル
テ
ツ
ケ
夷
製
盆
圖



一 後圖の酒瓶、木を以て輪と製し、外面は澁糊紙粘りて是を製し、是亦大小同だが、大抵二升より三四升よりありと云
一 夷ぶづろ製は、その相管あり圖のどし石を以て是を造る、又三弦の鼓器あり、胴ハ圓く魚皮を以て是をうる蓋、東鞆の易へ渡は、とろなるべし、又女夷の製は、とろなる枕、笠の二器あり、其狀圖のどし、枕を木綿を以て是を造り、色絹を以て其横面小文彩し、頭の觸るとあり、別の本綿を巻く、笠ハ樺木皮を以て是を製し、同皮を染りて文彩をなはし、圖の如し

夷製三弦及烟管圖

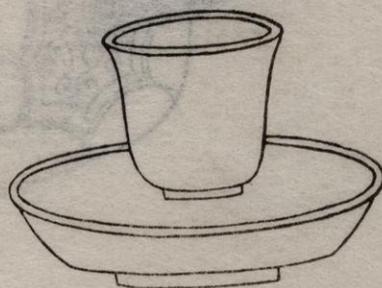




同枕笠圖



一 此夷種ハ滿州より墨丹の類と易(来)て諸器ノ文彩とちり
 是南諸夷のた兒とちりちり



一 舟ハ悉く滿州の屬夷コルデツケハ仔者滿州紀行
中ニ詳也の造ると
 ころありて地夷の製ハるものあり松を以て是と製其釘釘
 と悉く木也甚軟柔不便小之て堅密實用の物とありされむ

更小大洋波濤の中小用之べき物より、ハ状圖のナ、是
林藏ノ地夷ニ同く乘て満州ニ渡る舟なり

一 舟具異スる物なり、帆も魚皮と以て製し、形蝦夷舟の如し
一 艚ハ初島小異るナ、ナ、稍長大なりと云

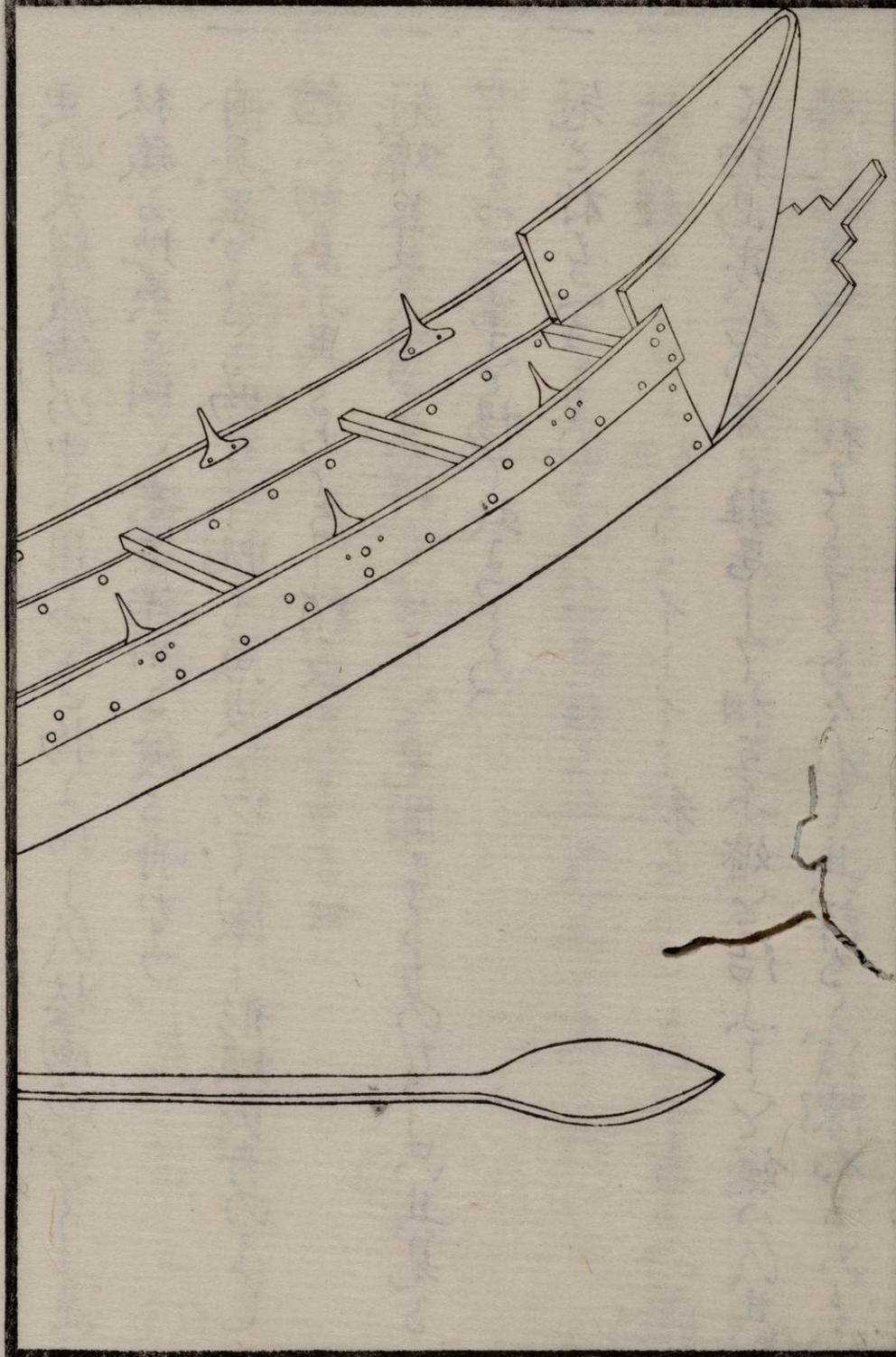
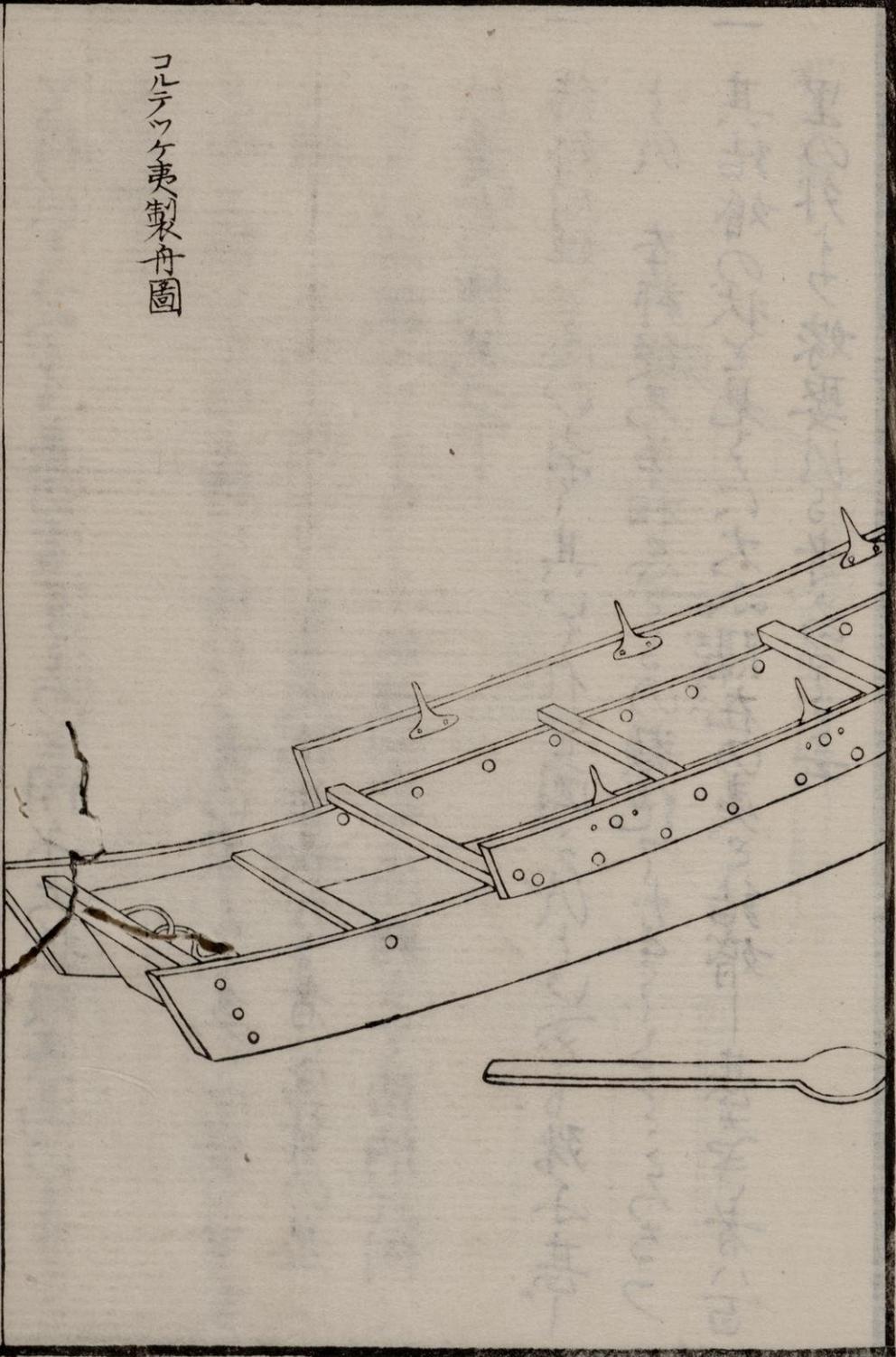
一 冠婚葬祭の事其詳なラと見聞スるものなり、只其見る
や、ハ二三事と揚て此ハつゝめ

一 冠と称スるべきものあり、其禮も亦有リ、ハあづ

一 此夷種キトウシ名地トイトイと称スるころ、ハ互ニの間

と初島夷俗の者と雜居して相互ニ婚と結ぶトと嫌ハ、其
婚礼の委曲ハ親視スるとハなれ、其詳ハ陳ルゆると

コレツケ夷製舟圖

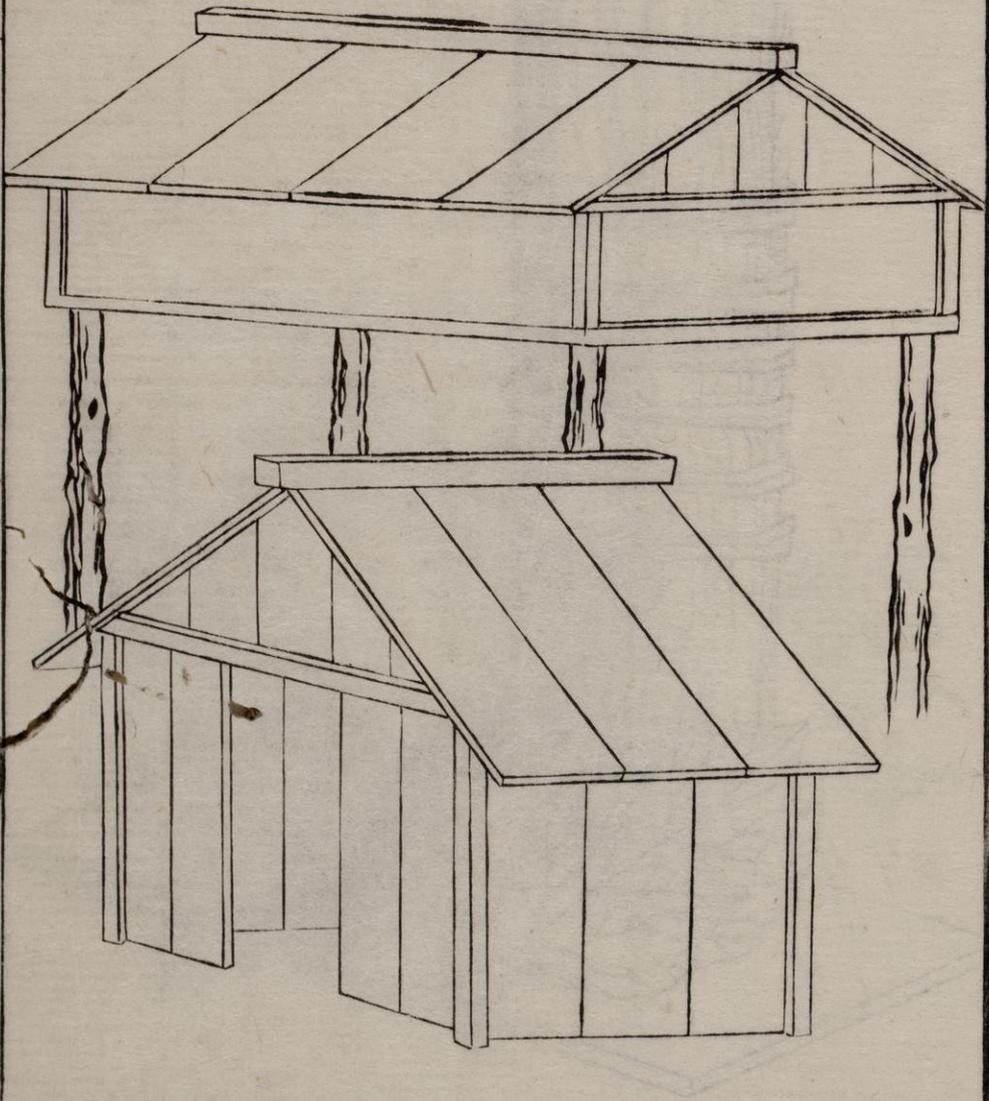


と得びとゞども夷の言とゞろと聞ふ大抵蝦夷島のまゝと
ろの如し

一 凡婚を結んとしむる時は婿たる者の家とゞ多く宝貨を舅家
に贈りて其女を請ふとあり大抵酋長たる者ハ宝貨の最上
となし所謂ペツチなるが小奴僕一人を添贈ると結納此例と
し貴女的情見と

一 結婚同姓と忌むあり其いそれと聞ふとゞども殊小甚し
とあり 本邦後兄弟相忌むるの類絶てなきとゞろちあり
一 其結婚の状と見るに大分隔在わがざいの夷と結婚し甚き者ハ百
里の外より嫁娶しる者ありと云

祀堂圖



祀堂圖說

卷之二

七

葬儀圖



神主圖



一 上小言々々々男女多淫の俗習かれど女姦通邪淫の事許多也故に其結婚の時及び其事發覺し西男一女と争ひ終は相死傷ひつこと少々々々

一人の處女小密通し終は僧老同穴と約せりよるるに相伴て婦家と出我家に誘ひ來ることあり其時ハ殊は多く寶貨と女家小贈りて其父兄は罪を謝し家婦とちりいと云

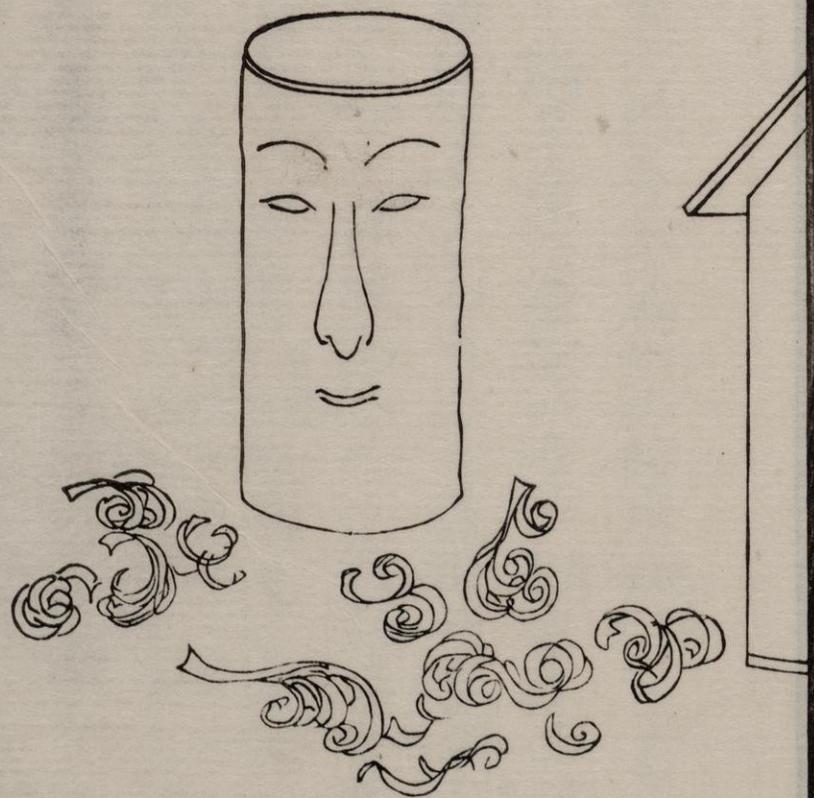
一 死亡の事ハ夷の殊小忌むことありれど林蔵其事を聞ざれども其見ることあり人死する時ハ衆夷涕泣して是を悲むこと甚深く其葬事を行ふ事南方と大に異はして死人を焼其骨をむろし家側は祠堂を造り其側ヲロツコ夷の棺れ如

キ物と設たく是蓋一骨と納る物なるべし祀堂高さ凡二尺餘
廣く是ふのなよ板と以て是と製し其内は圖はくくする神
主しと置魚肉煙草の類と供して是と祭る神主は結むす著ちやくゆるも
のく布帛の裂きなり如斯三四年の間是と祭るちと甚厚く後
悉く毀くち去ると云

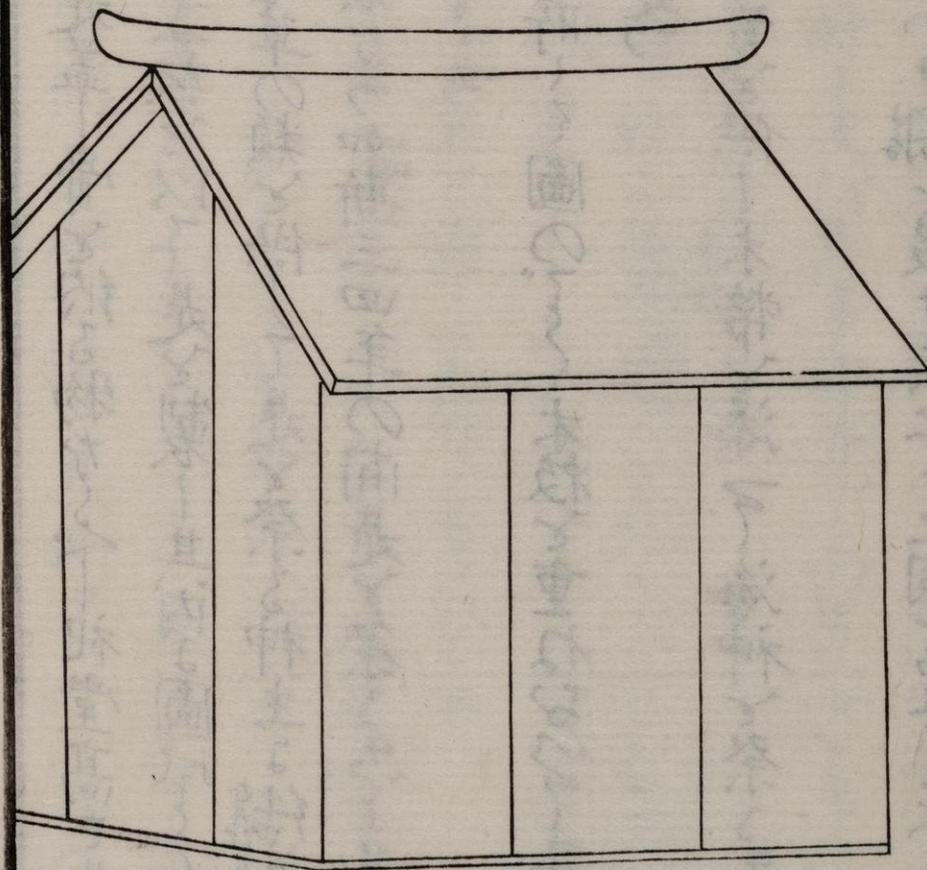
一 死人を焼たる所くく圍のどくく木枝と重ねぬらして其側鳥居
のどくキ物と建つ

一 海岸よ魚獸の首と供し木幣かひと添そて海神と祭るちと蝦夷
島のどく

一 家内正面よ小キ閣いごと設け其上よ上祠と置て家毎よ是と



守家神祠圖



祭る祠中小圖のどくある木製の神主あま何りのたるあや
を知らべ林藏其故を問ふとつども言語通せざれば夷の答
るところ瞭然^{れいぜん}とるべ蓋守家の神なるべと云

北蝦夷圖說卷之四終



北蝦夷圖說附録

一此島スノレンクル夷の内毎年満州の假府德楞に貢皮を

進め賞賜として歸り来る者とハラタ長カ力ーシンタ夷次

と称し是満州夷の命びるところなりて蓋蝦夷島の乙名小

使などいふ者の類なるべし林蔵乙なるところ此夷は會して

其受命の起えと詰問せしむ往昔年代此島未だ満州に入貢

せざりし時何國の夷船蓋魯西亞の船なるべし然れありて

有々む年、此島に來り諸獸皮と交易せしむとありし其

夷殊に暴虐ありて時々島夷と鬭争しつゝ少くも故小

島夷常に是を恐る其後一やせ年代不詳蓋乾隆十二三年の頃なりいふ林蔵島夷の蔵に

るところ満州錦と添て与ふる黄紙と書せし満州夷多く物と見しは乾隆十二年と題したる物ありと云

の人数と率ひて北島小渡を徧く島中を巡檢せし事有る者

島夷彼暴夷の襲ひ来りしと思ひ往々逃竄して山に入る者

多し其遁逃せびて海濱にありし者と呼出して其人物と

撰び西海岸イトイシラヌシと云ふ事百五十里余と称する所を志すトル

ト又と名ぐる夷一人をハラタとたり夫より五十里許奥

カウトと称する所を志す其名ウルトゴトなる者一人を命

ト夫よりノテトの山路凡二十里許を越え東海岸に出トヤ

カー一名メルと称する所を志す又一人を命じてハラタ

らむ此夷の子孫何れの時や又何故に移りや今其他西海岸タムラヲと称するところを居住し

カーシンタと称する者あり諸方は多く是を命ト年々滿州
 不入貢し其貢物を獸皮黒貂一枚と獻らるゝその賞賜と
 して錦一卷と與へ其他交易の物し又下直ありて是を與ふ
 一々約して歸り去りしより年々入貢し來りあは詰り
 と云今イトイー此酋長テイ、又今ウヤクトウは居は是林
 蔵同船して東韃の假府は
至りカウトの酋長モツケーヌ タムララーの酋長ボホ
夷ありカヌー以上二夷東韃假府は
 あり林蔵は是は會はの三夷皆其子孫よりてハラタ
 となるものなり

一 シラヌシトヤ西海岸凡五十里許奥地はナヨロと称する所
 ありヨナイは至るの間は土著する夷人其風俗は南方夷

子異るまゝなりとつどもスメレンクル夷のこくハラタ
 カーシンタと称して其身滿州に附属一年其府はふま貢
 と進め賞賜を受る者あつ林蔵再見のつてトコンブ地名の夷
 フーレルシクル年凡七十五トナイヲロ地名のクン子ト年凡七十
 フコー地名のイヘナシユイ年凡七十ナヨロのモンチーカンテ年凡七十
五此四人の老夷は質問して其事の起えを聞くと得た
 すと云四人は老夷あつ幼弱の頃此事なりとナヨロ乃
 酋長ヤエンヒラカン蓋し今の酋長ヤエンシクルれ曾祖父と称して其人とれ
 了悍猾暴戾の者あつ其所は滿州のスメレンクルのサン
 タンの夷交易ふ為に來りたる者凡拾人許と殺し其齎來り

たる所のれば悉く奪つて是を取る此事濫觴夷の秘たるを
とを得べといふども盗事を主として殺すあらば其免れ得たる山且夷遁逃して國

小歸り事状を以て滿州の府小訴し其翌年より滿州夷

船三艘と出し其屬スメレンクル山且の諸夷と率わたりナヨ

口小来り滿州夷此地より来る事是と始と以後役貢の事小

定ならずれば信用しざり其他タライカの邊より来るあり

云と去年暴をかち者の黨與悉く是と束縛トンナイ

島の酋長たる者残らば呼集り其側は在り其暴を制せざ

るれば罪を責め刑小置んや云夷等叩頭して赦さむことを

請ふも猶是を許さざれば衆夷其蔵らるところの寶器を

出して其罪不贖おつらひん事と請々あつらひせバ夷俗是と云 滿州夷漸しだく不
 其寶器と納めて其罪を赦ゆるはしむともヤエヒラカンが事ハ
 此事の魁首くわいしゆとして其罪殊不重々しんじゆんじゆんれむ其子カンテツロシケ
 ○ヨ一テアイノの二人と申して是を質とあり 将来くらゐ滿州
 小属せうじゆくをて山獵さんりやくとなり年毎としごとに其獲とるもの乃獸皮じゆうひを以て府
 に来りて貢こうと入るるいさひにハ賞賜しょうみの物と喚あやん且其他交易
 の事ことに至いたりてハ其償物しょうぶつ許多あまを得えせん又後來くわいらい属夷じゆくゐの者此土
 小来せうらいるもの有あるといふも慎つつしんで暴あやをなしらずならばのれやく約一諸
 寶器ほうきと納め其二子にこと率ひきめて其國そのくに小歸せうきりてよあ人質にんしつととるるは
こゝに今代いま山且夷やま交易かうぎの諸品しよひんと鳥夷とりゐ小貸置せうかて其債せうと賤せうふ事
あくをとる者ものハあらずくく其子そのこ兄弟あにと釋はなれて國くにに歸かへり質しつと

たゞ世俗傳へりしところ山且夷其地居夷の多うらん事を
欲してカラフト島夷を買歸るとりよりの蓋此事なる一
年に入貢懈ることあるのやうに其後年を経て二人の災を返

以時不當とて書と流るる印と点して二人をハラタれ官と

なり其他夷人の才ある者と換てカーシシタたりむ此書の

首長ヤエンクルが家へ傳ふといふがも満文とて是と書
副都統印と刻せり林蔵が模寫して其時よりして其子孫業

を流るる今小玉と島夷と率めて毎年はテレン即德楞

ア貢を進むと云今ナヨロの首長ヤエンクル一人のみハラ

タとして其他カーシシタたる者七人ありナヨロ此シロト

ナシカのモニシユコテウシヨロのセンバクル同イコ

ンランヶ東海岸ナイフツのリイシルアイノシヨニコタ

年のニシカニマツ 然る小近年獣皮數多くなりて年々其府
 至るあやと得び漸西三年小一度も入貢ヤ小獣皮も
 年と逐うて少くあくなり凡四五年間も其府小至り得ざり
 志小満州夷時山且夷として其貢と使ひあふ頻なる漸
 く卯年獲るところの獣皮も少くともと以て辰年夏カ
 シンタ三人イノハクルシロトマア 島夷拾人許と率めて
 満州趣との途ノテトの埒志て林蔵初見分の時是會
 一再见分の時ホロコタンよりて又其歸船逢ひくれを三
 夷小會して入貢の事状を問小衆夷皆曰満州の府小至り
 入貢の式舊例のあや黒貂皮一枚と献一ンヤンケイ
 官人 夷

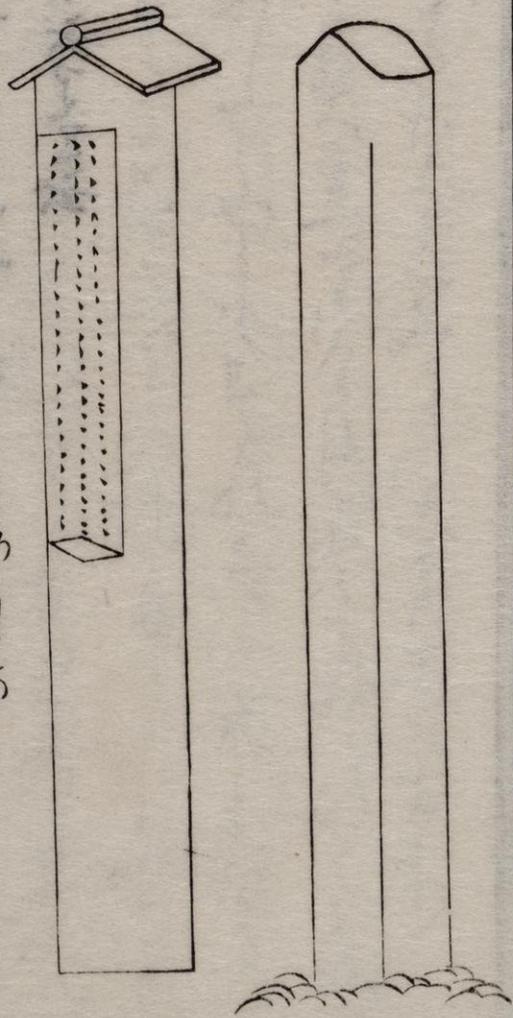
稱を採りけりハ其應接屢入貢セリ時乃ぞくわくわくび大
小其入貢れ情あり事と可責一往時よりの恩恵を忘
了やち罵り將來入貢の情わくわくむよと嚴謹して歸セ
と語りたり

一 林箴する所東韃地方の住夷スメレンクル○サンタン○コ
ルテツケ○キムンアイノカニ稱する者とも大抵其部落毎
ハラタ○カーシンタなる者と置いて其地夷を指揮せむと云
一 此ハラタ カーシンタと稱する者地夷の其指揮せむと
るふあゝび東韃の住夷スメレンクル山且此十ヨロよ来る
時ハ皆ヤエンクルの指揮に随ひ是を敬一他の廢夷は強る

小安談の語を以てする類の事と云々島夷鑿地を入るも
亦然と云

一 東海岸ハンケタライカと称する所小往時満州夷の建る處
の標柱あり今存在する所形圖のおやく其文字ハ刻痕既
漫滅しく讀づるは林蔵其地の夷ハタシシユ夷名ある
者よりつて其往時の状と聞きたり往時ハ標頭カサを設け其
下文字を題ひその文字の形と云夷の自書ハ如斯四行を題
書せりと答ふ故小林蔵より後圖のおとくかなし者を書きて
其形如斯かや否と問ふ真然也と答ふとりの故に其
圖を贅ひ

一ウシヨロトナノテト小玉るの間往昔魯齊亞の属夷カム千
 シメナモムワシレーヤと称する者久来て住ヤ一とありあ
 了此夷をキーレンと称する種族の者ありて殊小姦猾暴戾
 なる者ありて島夷と凌ぎ其婦女と侵一或ハ鬪争して庶
 夷と殺一山且夷の来る者と相争ひるを以て其甚と云



て大島夷の愁とカヤ〜こと凡三四年の間カ〜後つ
 ひ小島夷山且夷と共々相謀て其族と討て悉く殺し盡せ
 と云今小島夷〜ハ絶て来住らざる者多し是スメレンクル夷
 の言と〜あ少故小島夷〜よ〜く来る處と向ふは東
 緯北奥地東海の方より小島夷〜来てカムカタよ〜此
 島に渡り来ると云と云

北蝦夷圖説附録終

卷壹 卷四

橋本玉蘭齋画



卷貳 卷三

重探齋画



安政二年乙卯四月刻成

日本橋通北十軒店

江戸書物問屋

播磨屋勝五郎發行

蝦夷隘境輿地全圖

全九枚 繼

此圖ハ是より諸家の秘蔵セシ一蝦夷圖數十種及び西洋夷乃
法圖よ採集く大成一北極度較小照して大北方位を明し一蝦夷
本地より諸島と滿洲魯西亞兩國の界を定むる近の山川沼湖水陸の路程
地名村名を他照て輿地と係りたる洋載と滿とよりは一圖は是を
開く六蝦夷隘境方千里の地歴と掌の上より實に萬古古今未嘗の圖也

蝦夷路程便覽壺の石

多氣志樓主人著

全二枚 繼

此書を東西蝦夷の路程運上屋番屋の地凡五十箇所宛に
記す小碁秤の目とより左右の隅より互に斜小界して一面は併べ
對し里數の遠近相距との一目小審より且各地條下より同系
産物と略載せり蝦夷行程記乃至て管便なるとの小一冊今此
一奇冊といふべし

頭書

蘭溪先生著

四書略解

附録共

全十一冊

圖解

世^よも^う四^つ字^な信^ぎ語^ごと^り以^り經^て典^を以^て解^き釋^すする^の教^を本^を以^てま^じり^しめ^ばい^はれ^ば
 一^もも^の童^{どう}蒙^{もう}初^{しう}学^{がく}は^る為^する^に要^すと^得る^には^らぬ^が今^{いま}の^の略^{りやく}解^げの^の書^{しよ}は
 云^い約^{やく}あ^りて^は能^よ賢^{けん}教^をへ^給ふ^に取^りの^の本^{ほん}旨^{しめ}大^{たい}要^{よう}以^て明^{あき}ふ^にあ^らむ^は
 勝^かと^文を^て規^まく^物語^をと^り不^ふ失^しを^しる^に且^{かつ}上^う層^{じやう}の^の本^{ほん}文^{ぶん}を^以て^字と
 注^{しゆ}を^留小^{せう}尚^{じやう}時^じに^宮室^{しつ}意^い物^{ぶつ}の^の類^{るい}審^{しん}小^{せう}宗^{しゆ}を^以て^画さ^て云^いて^以て^解し^るに
 之^の一^の目^めを^瞭然^{ぜん}と^しし^るに^は實^{じつ}を^以て^来たり^しる^にあ^らむ^は天^{てん}地^ち懸^{けん}
 隔^{かく}せ^し事^{こと}を^以て^未学^{まがく}初^{しう}学^{がく}は^る者^{もの}一^{いつ}度^{たふ}を^以て^見ま^すに^は則^{すなは}ち^よく^道
 義^ぎ以^て祭^{まつり}明^{あき}と^りみ^は云^いふ^に及^{およ}ぶ^に謀^{まう}を^以て^試し^りし^るに^は雖^{しか}も^も其^{その}意^い
 と^得る^にこと^もあ^らず^にさ^らに^は一^{いつ}度^{たふ}を^以て^書の^の如^{ごと}く^に海^{うみ}内^{ない}の^の人^{ひと}童^{どう}蒙^{もう}
 乃^{すな}は^ちあ^らむ^は一^{いつ}本^{ほん}を^以て^修へ^らる^にま^じり^しめ^ばい^はれ^ば海^{うみ}内^{ない}の^の人^{ひと}童^{どう}蒙^{もう}

